

<令和6年度>

鳥取県文化芸術事業

評価報告書

《本編》

鳥取県文化芸術事業評価委員会

～ 目 次 ～

1 総合評価	1
2 実施結果概要	
(1) 実施事業一覧	3
(2) 評価の体系	3
3 事業別評価	
(1) 第22回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2024企画事業(鳥取県総合芸術文化祭実行委員会)	4
(2) 第22回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2024地域連携事業(Ⅱ)	9
(3) 第22回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2024展示事業(Ⅱ)	17
(4) 第68回鳥取県美術展覧会(鳥取県地域社会振興部文化政策課)	23
(5) 第22回鳥取県ジュニア美術展覧会(Ⅱ)	28
(6) 第9回合同公演ミュージカル幸せの青い鳥(鳥取県ミュージカル連盟、ミュージカル劇団ゆめ)	32
(参考)	
・鳥取県文化芸術事業評価委員会 委員名簿	39
・鳥取県文化芸術事業評価委員会 事業別評価報告書執筆担当一覧	40
・鳥取県文化芸術事業評価委員会 評価委員会の開催状況	40
・鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱	41

(別冊) 令和6年度 鳥取県文化芸術事業 評価報告書《資料編》

1 総合評価

【本年度の評価方法】

- ・評価方法について、事業実施者の策定した取組目標や行動計画に基づき、それらの達成度を評価する構成は基本的に昨年度（従来）と同様であり、評価の段階は「達成」、「概ね達成」、「一部達成」、「未達成」の4段階とし、それぞれ3点、2点、1点、0点と数値化し、達成度を確定した。また、各事業の総括を行い、「成果」、「課題」、「その他事業に関する意見、感想」に事業の全体評価を評価委員の視点で記載している。
- ・取組目標及び行動計画の設定並びに達成度評価の視点として、県が策定している「アートピアとっとり行動指針」に掲げる施策の方向性との関連及び前年度の事業評価での課題に対する対応がより明確となるよう、事業評価シートの作成にあたり留意すべき事項を事業実施者と評価委員で共有し、本年度の事業評価を実施した。具体的には、「取組目標」の設定にあたっては、同指針の内容と前年度の課題を十分に踏まえ、「行動計画」には、「掲げる取組目標を達成するための具体的な取組事項」、「そのために工夫した事項」、「前年度からの見直し事項」等を具体的に記載し作成することとしている。

【本年度の事業評価】

・どの事業も様々な改善や挑戦を行いながらアートに親しむ環境づくりに一定の成果をあげることができたことは評価に値する。広報面で近年はHPやSNSなどのインターネット媒体が積極的に活用されてきており若者層等を中心にPRに一定の成果を上げてきているものと思われるが、アンケートに加えてフォロワー数、アクセス数などの把握も含めて定量的なフォローを行っていく必要があるのではないか。また、従来からの広報媒体であるチラシやポスターにQRコードを付けてHPに誘導するなど一層の工夫も期待したい。

（1）とりアート事業（とりアート 企画・地域連携・展示事業（3事業））

とりアート事業については本年度から装いを新たにスタートしたが、これまでの良い部分を引き継ぐとともに、若者とプロのアーティストのコラボレーションや美術と音楽のコラボレーションなど新たな挑戦も行われる中で、今後につながる成果を上げたことは評価できる。評価委員会では、成果が上がった取り組みについては、何らかの形で一定期間継続して行っていくべきといった意見が多くあった。

そのような中、アンケートなども含めてコンサート事業で指摘されたのは、鑑賞マナーについてであった。初めての鑑賞者も含めてより幅広い県民の方に鑑賞していただくことも求められる中ではあるが、例えば小さな子どもでも分かるような鑑賞時のマナーを啓発する映像を県などが中心となって作成し事業者が開演までに放映することで鑑賞マナーへの理解を促したり、未就学児の入場ができるようにしている公演であることやその理由などが来場者に予め的確に伝わるようにして理解を求めるなど、誰もが安心して快適に鑑賞できるよう一層配慮していくことが求められるのではなかろうか。

・企画事業「未来への扉～TOTTORI SUPER BRASS」は県内5高校の吹奏楽部員約70名が学校の垣根を超えて演奏に取り組むとともにプロのアーティストから直接アドバイスを得ることで一人ひとりの演奏技術や表演方法に向上がみられるなど、今後につながる取り組みとなった。参加高校生、聴衆ともに東部地区が大部分となっており、今後県内全域への拡大が期待される。

・地域連携事業「～絵画と音楽で紡ぐ時間～Peinture×Musique」は、県立美術館の開館を控える中、美術と音楽のコラボレーションという新しいアプローチに挑戦する中で、新しい芸術の楽しみ方を提案することができるなど意義深い取組となった。演出などに工夫が求められるが、今後の取り組みが大いに期待される。

・展示事業「COLOR MIX ART2024」は、とりアートで初めて展示事業を独立した形で開催するとともに、普段一堂に見ることは少ない若手アーティストのグラフィックデザイン、建築、ファッションなど多様なジャンルの作品の鑑賞機会を提供することで、若手アーティストの発表機会と若手アーティストに対する県民の関心を広げる有意義な取り組みとなった。会場での若手アーティストの出番を創出するなど今後に向け一層のブラッシュアップを

期待したい。

(2) 鳥取県文化政策課主催事業（第68回鳥取県美術展覧会、第22回鳥取県ジュニア美術展覧会（2事業））

・鳥取県美術展覧会は、SNS等を活用した積極的な広報が徐々に功奏してきており、入場者数が増加するとともに30代以下の若手鑑賞者の割合が増加した。県立美術館の開館を追い風にして更なる発展・充実を期待したい。

・鳥取県ジュニア美術展覧会は、創造性のある作品や技術が高い作品が多く見受けられるなど、作品のレベルが年々高くなってきており、また入場者数も増加しており継続して取り組んできていることの成果が表れている。県立美術館の開館を追い風にして更なる発展・充実を期待したい。

(3) 鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業（第9回合同公演ミュージカル幸せの青い鳥）

・9回目となる鳥取県ミュージカル連盟の合同公演ミュージカルは、ミュージカル劇団ゆめが中心となって開催された。オーディションによる参加メンバーを含む幅広い年齢層の出演者やスタッフが、協力して繰り返し練習を重ねる中で、表現力や協調性、自信など様々な「力」が育成されるとともに、その成果が発揮された舞台となった。引き続き、県民によるより質の高いミュージカルをより身近に楽しんでもらえる機会を提供していただくことを期待したい。

【今後の評価に向けて】

・引き続き取り組み目標及び行動計画の設定並びに達成度評価の視点として、県の第2期アートピアとっとり行動指針に掲げる施策の方向性との関連がより明確となるよう、事業評価シートの作成に当たり留意すべき事項を事業実施者と評価委員で教諭し、事業評価を実施していく。

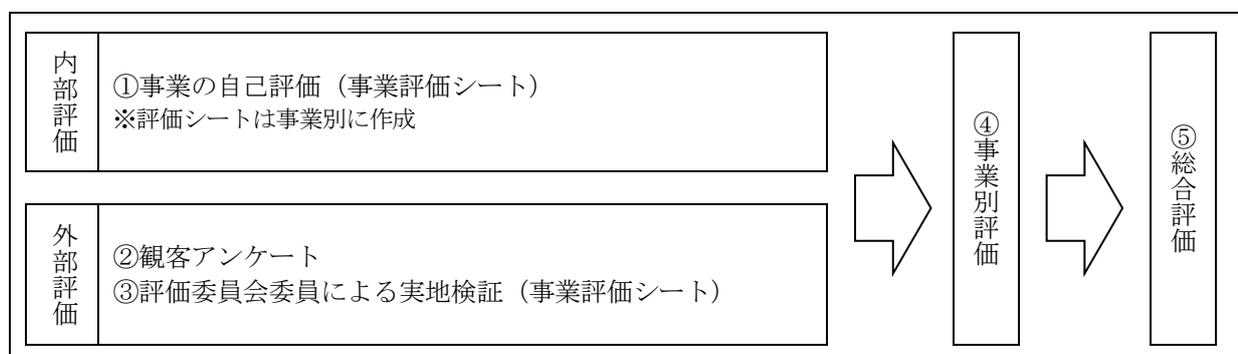
令和7年3月
鳥取県文化芸術事業評価委員会
会長 山本仁志

2 事業実施概要

(1) 実施事業一覧

番号	主体	団体名	事業名	実施日	実績				
					入場者数	アンケート配布数	アンケート回収数	アンケート回収率	満足度
1	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会	第22回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2024 企画事業	令和7年 1月26日(日)	延べ 900人	枚	482枚	53.5%	96.0%
2			第22回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2024 地域連携事業	令和6年 11月24日(日)	683人	630枚	310枚	49.2%	77.0%
3			第22回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2024 展示事業	令和7年 1月10日(金) ～13日(月・祝) 1月17日(金) ～19日(日) 1月24日(金) ～26日(日)	978人	978枚	422枚	43.1%	76.3%
4	鳥取県	地域社会振興部文化政策課	第68回鳥取県美術展覧会	令和6年 9月15日(日) ～11月28日(木)	7,873人	枚	4,394枚	55.8%	86.5%
5			第22回鳥取県ジュニア美術展覧会	令和6年 12月7日(土) ～令和7年 2月2日(日)	5,178人	枚	2,527枚	48.8%	98.3%
6	鳥取県文化団体連合会	鳥取県ミュージカル連盟	第9回合同公演ミュージカル幸せの青い鳥	令和6年 12月14日(土) ～15日(日)	1,096人	枚	597枚	54.5%	96.0%

(2) 評価の体系



3 事業別評価

第22回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2024企画事業

令和7年1月26日（日）とりぎん文化会館

【文化芸術事業評価シート】

目的	自己評価			評価委員による評価
	取組目標 （※1）	行動計画 （※2）	達成度（※3）及び 評価理由（※4）	達成度及び評価理由
文化芸術に親しむ環境づくり	文化芸術活動者の発表や創造の機会の提供	県内高校吹奏楽部を対象に出演を募り、合同バンドによる演奏を行うことで、学校の垣根を越えて音楽を通じて交流し、普段の部活動で培った技術や演奏を披露する機会を提供する。	達成度：概ね達成 【成果】 ・5校の高校吹奏楽部員約70名が学校の垣根を越えて練習から本番に至るまで一つの音楽に向き合いながら絆を深め音楽を通して交流できた。普段は学校単位の限られた人数で演奏する中で、今回の特別編成の大人数ならではの音を奏でる楽しさを味わえた経験は出演した高校生たちにとって大きなモチベーションアップに繋がった。 【課題】 ・県中部、西部の高校吹奏楽部の参加を促すことができなかった。練習から本番の会場が東部であることも要因のひとつであり、練習回数の拡充や、練習会場の地域巡回など各学校が参加しやすい環境を整えることで、より多くの学校が参加できる可能性も広がると考えられた。	達成度：概ね達成 【成果】 ・5校の高校吹奏楽部員70名が、学校の垣根を越えて合同練習を積み、本番に臨むということで、生徒同士の交流ができたことと、学校の指導者しか知らない生徒にとっては新鮮な経験ができた。部活動では味わえない、大人数での迫力ある演奏に大きな達成感を持てたことと思う。 【課題】 ・県中・西部の高校の参加を促せなかったことが課題として挙げられているが、県下合同でとなると、生徒の移動と楽器の輸送など大きな負担を伴う。生徒数など考慮すると、県内3か所（東・中・西部）で各年の地域巡回の演奏会として計画することが望ましいと考える。 また、県下全域の高校からの参加を促すためにも、事業計画を早期決定し学校行事等と重ならない公演及び練習日程の調整を工夫する必要がある。
		本番公演に至るまでに、国内外で活躍するプロのアーティストを講師に迎え、楽器別クリニックを複数回行うことで、音楽表現の広がりを得るなど、新たな演奏技術を習得する。	達成度：達成 【成果】 ・プロアーティストから直接アドバイスを受けることで、学生一人ひとりの演奏に新たな魅力や深みを加えることができた。また、楽器別レッスンを通じて、参加者は音楽表現の幅を広げ、新たな演奏技術を習得した。本番公演では、その成果を存分に発揮し、観客からも満足度96%（とても満足/満足）の高い評価を得ることができた。	達成度：達成 【成果】 ・出演生徒へのインタビューでも全員口にしていたが、プロアーティストから直接指導を受けることで、生徒たちは演奏技術や表現方法に大きな向上がみられたと思う。アンケート結果からも、ほとんどの観客が、その演奏に高い評価をしている。
	誰もが文化芸術に親しむことができるようにするための環境づくり	・県民の鑑賞機会を広げるため、入場制限は設けず入場料は無料とし、誰もが気軽に舞台芸術を鑑賞できる機会を提供する。 ・公演プログラムは、子どもから大人まで幅広い年齢層の方が楽しめる馴染みのある曲を織り交ぜな	達成度：達成 【成果】 ・“だれでもウエルカム”として、未就学児の入場も制限することなく受け入れた。当日は開場中のアナウンスやマナー動画で来場者への理解を求め、演奏中の出入りを自由とし、掲示物	達成度：達成 【成果】 ・家族連れで小さな子どもさんも多く来場されていた。子どもの来場に理解を求めるアナウンスもあった。子どもの声が演奏を聴く人たちの邪魔にならないかと心配

		<p>がら、本公演だけの特別編成による高校生合同バンドのダイナミックな演奏を届けることによって、一つの音楽を全員で奏でる吹奏楽の醍醐味を味わうことのできる構成とする。</p>	<p>等により親子室の解放、チャイルドクッションの貸し出しなど声かけに努めた。小さな子どもの来場もあり、リズムに併せて体を動かす場面もあり、アンケートでは生演奏を聴かせることができた喜びの声も多く寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムは2部構成とし、1部は子どもにも聴きなじみのある鳥取ゆかり曲、2部は吹奏楽の名曲と、プロアーティストの導きによって音作りに励んだ高校生のエネルギーな演奏で、吹奏楽の魅力を届けることができた。 	<p>したが、子どもにもなじみのある曲がおりまぜてあり、演奏の迫力もあって、鑑賞に障りを感じることはなかった。小さな子どもにも、生の演奏を聞かせる良い機会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロの指揮者、演奏者が関わっていないながら無料であり、入場制限もないので、気軽に鑑賞できたこと。さらに、高校生の演奏も良かったことが、アンケートの満足度の数値にも表れている。
【前年度の課題】 ※前年度評価対象外				
文化芸術が育む・文化芸術を育む人づくり	若い世代による企画・運営への参加促進や人材育成	<p>プロのアーティストと共演し、一緒に舞台を上げることで、将来の音楽活動を担う人材を育成する。さらに文化・芸術への興味と関心を高める。</p>	<p>達成度：達成 【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出演した高校生は、プロとともに同じステージに立ち、ともにひとつの音楽に向き合うことで、演奏技術や自信を向上させた。将来、音楽家の道に進む学生や音楽と関わりを持つ教育等の進路を目指す学生もあり、今回の経験が将来の音楽鑑賞者や活動者の育成に少なからず繋がったと考えられる。 ・アンコール「宝島」での演奏では、高校生から会場を巻き込んだ手拍子の発案があるなどプログラムへの参画もあった。 ・来場した小学生、中学生からは高校生の演奏に憧れや勇気を得たことがアンケートから読み取れたとともに、公演満足度は全体の9割を超え、多くの方から感動の声が寄せられたことから未来の音楽好きを増やす企画として成立し、文化芸術への興味関心が高まったと考えられる 	<p>達成度：達成 【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出演した高校生たちは、演奏技術の向上だけでなく、部活動での定期演奏会などでは体験できない、プロの指揮者、演奏家との一体感を感じることができたのではないかと。将来、音楽活動の道を目指す生徒は貴重な体験ができたことと思う。 ・来場者には、参加高校生の部活動の仲間や、中学校の吹奏楽部の生徒が多くいたようで、その生徒たちから、憧れの存在とみられるなど、音楽を目指す次世代の増加につながることを期待できる。
	子どもたちがアートを鑑賞、体験する機会の充実	<p>主に高校生と同年代の若い層の来場を促すため、公演チラシは県内高校を中心に配付し、SNSでの発信は、出演校や関係者にも協力を仰ぎ、広く来場を呼びかける。</p>	<p>達成度：達成 【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内東部すべての高等学校にチラシを全校配付し、出演と同世代の若い層、及びその家族の来場を促した。結果として10代～30代、孫を持つ世代の60代～70代とそれぞれ全体の約3割を超えた。 ・出演アーティストからのSNS発信に加え、SNSアカウントを持つ出演高校からも楽器別レッスン/合同練習/学校での練習の様子や、本番までのカウントダウンなど、広く来場を呼びかける強力な発信があった。口コミや家族等の出演を理由とした来場は約3割を占め、集客に繋がったものと考えられる。 	<p>達成度：概ね達成 【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出演者の家族、友人、知人の参加者が多く、また吹奏楽のOBと思われる参加者もあり、10歳代以下の入場者が多くあった。このような機会を増やして、若いうちからどろんどろん芸術に親しむ体験をしてほしい。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中・西部の入場者が少なかった。せめて、中・西部の吹奏楽部の生徒に対して来場の呼びかけがもっと積極的にできればよかった。今後中・西部の高校からの出演参加にも繋がると思う。
	【前年度の課題】 ※前年度評価対象外			

文化芸術による元気な地域づくり	文化芸術による地域の活性化	<p>高校生による吹奏楽のエネルギーギッシュな演奏を広く届けることで、地域住民が音楽の魅力を再発見するだけでなく、日常的に舞台芸術鑑賞の機会が増えるきっかけにつなげる。</p> <p>また、若い世代の音楽活動を支援することで、未来を担う音楽人材の育成や地域全体の文化水準の向上につなげる。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生による吹奏楽のエネルギーギッシュな演奏を通じて、来場した地域住民に音楽の魅力を再発見していただくことができた。また入場無料、整理券不要、年齢制限なしと気軽に鑑賞できるものとしたことで、多くの方々に日常的に舞台芸術を鑑賞する機会を持つきっかけを作ることができた。 プロアーティストからの楽器別レッスンや本番までの過程を通して、若い世代の音楽活動を支援できたことは、未来を担う音楽人材の育成と、地域全体の文化水準の向上に貢献できた。 <p>【課題】</p> <p>地域住民の文化芸術への興味関心を高めていくためには、定期的な開催とその広報活動が重要である。この事業が一過性のもので終わらないように、次の世代の学生たちも参加できるように仕組みを検討することも必要である。また、継続することにより県内吹奏楽のレベルアップも期待できる。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生がプロアーティストの指導を受け、共に演奏するという企画に興味を持って来場された方もあった。入場無料、整理券不要は、気軽に参加できた大きな理由だと思う。演奏への満足度が高かったこともあり、今後もこのような機会を望む声が多くある。 高校生がプロアーティストの指導を受けたことは、大きな自信となり、これからの音楽活動に真剣に向きあえると思う。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の満足度が高かったことから、この事業が一過性のもので終わらないよう、次に続く生徒たちも参加できる仕組みを検討することが必要である。地域に定着させるためには、定期的な開催が重要と思う。
	【前年度の課題】 ※前年度評価対象外			
達成度集計(※5)		(16/18) ≙ 88.8%	(15/18) ≙ 83.3%	

【定量目標・実績】

	目標	実績	(参考) 昨年度実績
① アンケート回収率 (%)	70%	53.5%	—%
② 観客満足度 (%) (※6)	80%	96%	—%
③ 入場者数 (名) (※7)	900人	延べ900人	—人

【自己評価総括】

【成果】

- 企画事業は「活動者のレベル向上、優れた文化芸術の鑑賞機会の提供、ジャンルや世代を越えた交流、次世代活動者の育成のため県域の文化活動団体及び活動者と創る舞台公演」を企画実施するとしており、まさにすべての目標を捉えた事業内容として実施することができた。
- 参加した高校生や学校等関係者からは「継続した取り組みとして欲しい」「来年も出演したい」といった要望も複数あり、事業の継続により吹奏楽全体のレベルアップ、鑑賞者にとっては文化芸術への関心も高まるものとする。
- アンケート回収について、50%を超える回収率であったが目標設定が高いこともあり、回収率が目標を下回った。一方で満足度は目標値を大きく超え、入場者数についても目標値と同数の成果を残すことができた。
- 練習動画を配信し各学校での練習に活用してもらうことで、集まらなくても練習しやすい環境を整えた。また、練習の様子を動画で撮影してゲストアーティストに見てもらい、アドバイスをいただくなど効率的な練習方法を取り入れたことも成果の一つであった。
- 小さい子どもの入場について評価する声が多く、若い高校生たちが聴きなじみのある曲を演奏する姿を生で鑑賞する劇場体験が、将来の音楽家の芽を感じるという未来への希望も抱かせるものとなった。

【課題】

- 広報宣伝について、事業予算も限られる中、チラシ配布を主な手段として、無料のイベント情報サイトや文化振興財団のメールマガジンの活用、SNS・ウェブサイトでの発信、ラジオ、テレビ等の無料枠PR、関係者へ

の案内により集客を図った。また、出演した学校や高校生の口コミ、SNS 発信に支えられたことも集客を広げることとなったが、設定席とした梨花ホール 1 階席 (1, 200 席) がすべて埋まるような目標値以上の来場を促す工夫も必要であった。

・アンケートの声から一部鑑賞マナーの悪さを指摘する声もあり、鑑賞者の育成も文化芸術振興にとって大切なことであり継続的に鑑賞マナー向上を訴えていく必要がある。また、入場無料、未就学児でも来場できる公演である以上、誰もが安心して快適に鑑賞できるよう、互いに理解を求め合いながら合理的な配慮に努める必要がある。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・次世代の子どもたちの感性を育む機会を繋いでくることが必要であり、一過性の事業に終わらないよう次の世代の学生たちも参加できるような継続した仕組みを考えることも必要である。
- ・今後、同様の企画を継続するにあたっては、県内全域の高等学校からの参加が望めることや参加しやすい環境の整備、移動や楽器運搬などの負担軽減、さらには早期の事業計画や学校行事等と重ならない公演及び練習日程の調整、アーティストとの交渉、親しみやすい曲目を工夫することが求められる。
- ・国内外で活躍するアーティストとの共演、県内高校生を基軸としたプログラムづくりは、アートによる地域づくりでもあり、その取り組みを拡充することでアート（文化芸術）への関心を高めることができる。県内の若者たちに新たな経験や学びの機会を届けることで、地域全体が一体となってアートを支える取り組みが地域の文化的な発展に貢献できるものと捉え、今後の事業展開を検討していきたい。

【総括】

【成果】

<イベント内容>

- ・5校の高校吹奏楽部員 70 名が、学校の垣根を越えて合同練習を積み本番に臨むことで、生徒同士の交流もでき、学校での部活動の中では味わえない、大人数での迫力ある演奏に大きな達成感を持たれたことと思う。
- ・参加した高校生や学校等関係者からは「継続した取り組みとして欲しい」「来年も出演したい」といった要望も複数あったことは事業として成功と考えられる。事業を継続することにより吹奏楽全体のレベルアップ、鑑賞者にとっては文化芸術への関心も高まるものとする。
- ・複数の高校生のコラボ演奏が叶った。将来、鳥取市吹奏楽団が誕生したりしたら、事業の目的が叶うのではと期待する。
- ・プロの指揮者、演奏者が加わりながら無料ということ、高校生の演奏も素晴らしかったことが、アンケートの満足度の数値にも十分に表われている。

<来場者>

- ・家族連れで小さな子どもさんも多く来場されていた。なじみのある曲がおりまぜてあり、演奏の迫力もあって、鑑賞に障りを感じることはなかった。小さな子どもにも、生の演奏を聞かせる良い機会となった。
- ・小さい子どもの入場について評価する声が多く、若い高校生たちが聴きななじみのある曲を演奏する姿を生で鑑賞する劇場体験が、文化芸術のすそ野を広げることとなる。
- ・来場者には、参加高校生の部活動の仲間や、中学校の吹奏楽部の生徒が多くいたようで、その生徒たちの音楽活動への意欲も高めることができた。

<出演者の練習環境>

- ・参加生徒は、プロアーティストから直接指導を受けることで、演奏技術や表現方法を学ぶことができた。アンケート結果からも、ほとんどの観客が、その演奏に高い評価をしている。
- ・プロによるクリニックは、的確でとても刺激的だったと思う。
- ・子どもたちにとっての財産は、県内外を問わず人生の中でとても貴重な経験になったと思う。できることなら、このワークが県内の音楽シーンに育成および成果を残せたと思う。
- ・練習動画を配信し各学校での練習に活用してもらうことで、集まらなくても練習しやすい環境を整えるなど、効率的な練習方法を取り入れたことを評価したい。

<満足度>

- ・アンケート回収結果で満足度は目標値を大きく超え、成果を残すことができた。

<その他>

- ・フルートパートのみなさんが身体で歌うように演奏をしていたのがとても良かった。
- ・司会者の発音が素晴らしかった。司会進行もさすがだった。

【課題】

<イベント内容>

- ・クリニックの内容が、本番のステージでプロによる実際の演奏で紹介されるともっと楽しめたと思う。
- ・演奏曲によっては練習不足を感じた。逆に言えば、練習量の多い曲はとても聴きごたえがあった。

<出演者>

- ・県中・西部の高校生にもぜひ経験してほしい。県下合同でとなると、生徒の移動と楽器の輸送など負担を伴うが、各学校が参加しやすい方法を工夫してほしい。

<会場運営>

- ・アンケートの声から一部鑑賞マナーの悪さを指摘する声もあるが、鑑賞者の育成も文化芸術振興にとって大切なことであり継続的に鑑賞マナー向上を訴えていく必要がある。
- ・未就学児でも来場できる公演である以上、誰もが安心して快適に鑑賞できるよう、互いに理解を求め合いながら合理的な配慮に努める必要がある。

<日程>

- ・高校では、前年度末には年間の学校行事を決めるため、年度途中では、参加したくても調整が難しい学校があるので、早い時期に企画決定が必要。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・今回来場した中・高生の中には、次の機会には演奏者として参加したいと思った生徒も多いと思う。吹奏楽のレベルアップのため、この事業を継続してほしい。また、若年層から親世代、祖父母世代と幅広い鑑賞者があり、集客力もある。
- ・アンケートの中で、演奏途中に入場を認めることへの苦言があった。せめて中央通路を通らず、壁際の通路を通るなどのルールを設けては如何か。
- ・アンケートの回収率が目標に大きく届かなかったのは、若年層が多かったことと同サイズのチラシが多く挟まれていて気付かなかったことも理由にあるのではないかと思う。アンケートへの協力依頼については一層の工夫が必要である。
- ・一過性の事業に終わらないよう次世代の学生たちも参加できるような継続した仕組みを考えることも必要である。
- ・同様の企画を継続するには、県内全域の高等学校からの参加を望むなら参加しやすい環境の整備、移動や楽器運搬などの負担軽減、早期の事業計画や学校行事等と重ならない公演及び練習日程の調整を工夫することが求められる。
- ・東部、中部、西部の3カ所でクリニックをする方が現実的で良い企画になるような気がする。

【文化芸術事業評価シート】

目的	自己評価			評価委員による評価
	取組目標 (※1)	行動計画 (※2)	達成度(※3)及び 評価理由(※4)	達成度及び評価理由
文化芸術に親しむ環境づくり	誰もが文化芸術に親しむようになるための環境づくり	音楽・絵画・詩から成る公演とし、多様なジャンルが合わさることで、目・耳・心で芸術を味わうことができる催しとする。 第一部では、NHK交響楽団メンバーによる質の高い演奏と、前田寛治に関連する作品の投影に合わせて詩を朗読する。第二部では、小学生が描いた絵画作品と共に、多くの人に知られるムソルグスキー「展覧会の絵」をピアノ独奏版で演奏し、子どもから大人まで幅広い年齢層が楽しめる催しとする。	達成度：概ね達成 【成果】 第一部では、名前は聞いたことがあっても具体的な作品までは知らない人が県民でも多い北栄町出身の洋画家・前田寛治の作品上映に合わせて、前田が活躍した時代の楽曲を一流の奏者が演奏。作品の描かれた世界観を広げることができた。また、作品解説を「詩」にすることで、鑑賞者は感情移入しながら作品が描かれた時代背景や前田の心情を推し量って作品への理解を深め、県立美術館開館後には本物を観にいかうと思わせる内容となった。 第二部での児童の絵画の上映と展示は、保護者や児童の鑑賞者も多く、幅広い層の来場があった。県出身の若手ピアニストの独奏もそれぞれの演奏が楽しめ、いずれも若い県民の文化への力を感じさせるものとなった。 【課題】 第一部の質は高いものであり工夫もされた内容だったが、普段コンサートなどの鑑賞に慣れていない人や低学年の子供にとっては、やや難しくてよく分からないと思われる面もあり、「幅広い年齢層が楽しめる」という点には課題を残した。普段、音楽コンサートを鑑賞しない層にも、第一部の「ホンモノ」を聴いてほしいという主催者側の思いはあったが、鑑賞者側にとって、それが楽しめるものになっていたかという点に課題が残った。 逆に音楽好きの鑑賞者にとっては、第二部の子供の絵が邪魔	達成度：概ね達成 【成果】 NHK 交響楽団メンバーによるプロフェッショナルな演奏と、洋画家・前田寛治の作品、朗読の組み合わせが相乗効果を生み、芸術の奥深さを鑑賞者に伝えることができた。特に、前田寛治の世界観と音楽が融合し、強い印象を与えた点が評価された。 また、視覚と聴覚を活用した演出により、鑑賞者のイメージネーションを刺激する芸術性の高い企画となった。質の高い演奏が作品の世界観を際立たせ、音楽の力で子どもたちにもメッセージを伝えることができたと考えられる。 さらに、地元アーティストと子どもたちの絵画とのコラボレーションにより、音楽と美術を融合させた総合芸術の可能性が示された。特に、スクリーンに映し出される自分の絵を楽しみにしている子どもの姿も見られ、参加型の要素を取り入れたことが成果の一つとして挙げられる。 【課題】 プログラムの構成には改善の余地がある。第一部を導入、第二部を展開とする場合、前後半の順番を入れ替えることで、鑑賞者の関心をより持続させられた可能性がある。 また、第二部の選曲について、「未来」をテーマとした子どもたちの作品と楽曲の曲調が合っていなかった。より明るい曲想やポピュラーな楽曲を選ぶことで、特に親子連れの来場者にも楽しんでもらえ

		<p>であるという主旨の声もアンケートにみられた。</p> <p>また、2部構成としたことにより、各部で客層に変化があるのではないかと見込んでいたが、実際は開演から終演まで通しで鑑賞する方が多くみられた。このことにより、2部の最後が盛り上がり欠けている、1部と2部を入れ替えるべきだったのではという意見もみられた。</p> <p>相反するものを一つの催事に組み込んでおり構成・演出に工夫が必要であった。</p>	<p>たのではないかと考えられる。若手ピアニスト3名による演奏と絵のコラボレーションの発想は良かったが、子どもたちの合唱や別の演奏形式を取り入れることで、よりテーマ性を強調できた可能性がある。</p> <p>加えて、第一部で演奏されたフランス関連の名曲は、クラシック音楽に馴染みのない層や子どもにとってはやや難解だったため、選曲の工夫が求められる。質の高い音楽が持つ力は、子どもたちを含む鑑賞者に何かしらのメッセージを伝えると思うが、全体的なプログラムの構成や楽曲の選定については、より熟慮することで、芸術性と親しみやすさのバランスを取ることができたと考えられる。</p>	<p>たのではないかと考えられる。若手ピアニスト3名による演奏と絵のコラボレーションの発想は良かったが、子どもたちの合唱や別の演奏形式を取り入れることで、よりテーマ性を強調できた可能性がある。</p> <p>加えて、第一部で演奏されたフランス関連の名曲は、クラシック音楽に馴染みのない層や子どもにとってはやや難解だったため、選曲の工夫が求められる。質の高い音楽が持つ力は、子どもたちを含む鑑賞者に何かしらのメッセージを伝えると思うが、全体的なプログラムの構成や楽曲の選定については、より熟慮することで、芸術性と親しみやすさのバランスを取ることができたと考えられる。</p>
	<p>本公演は鑑賞無料とし、普段劇場・ホールへの来場、鑑賞機会が少ない方へのハードルを下げ、誰でも鑑賞できる機会を提供する。</p> <p>併せて、会場は音響性能に優れた大ホールとし、その効果を最大限活かすことのできる演出を目指し、居心地の良い空間での上質な体験を提供する。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>鑑賞機会の提供については、入場者が定量目標を超える実績となった。会場の音響効果の良さやスクリーンや詩を効果的に使った演出は、行動計画の設定目標をクリアすることができた。</p> <p>鑑賞者や会場の雰囲気から、こうした鑑賞に不慣れな方もおられたと推測され、「誰でも鑑賞できる機会の提供」は一定程度できたと考えうる。</p> <p>【課題】</p> <p>通常、ピアノは3種類のメーカー（YAMAHA、ベーゼンドルファー、スタインウェイ）より選ぶことができるが、事業内容の詳細決定が遅れたため、今回は選択肢がYAMAHAのみという状況となっていた。会場・演奏曲目に合ったピアノを検討・選定することができれば、更にホールの効果を引き出すことが可能であった。事業内容の早期決定が課題である。</p> <p>また、アンケートにもある通り、鑑賞者のマナーの悪さを指</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>今回の公演は入場無料で、多くの来場者に鑑賞してもらえたことができた点が大きな成果である。特に、質の高いステージを無料で提供したことにより、普段コンサートに足を運ばない層の来場につながった。</p> <p>子どもから高齢者まで幅広い年齢層の観客が見られ、来場のハードルが低い公演としての役割を果たしていた。さらに、大ホールの音響が良く、演奏の響きが客席まで十分に届いていた点も評価された。また、音楽に視覚的な演出を取り入れることで、不慣れな来場者でも楽しめる内容となり、飽きさせないコンサートの手法として効果的に機能したと考えられる。</p> <p>【課題】</p> <p>「誰でも鑑賞できる機会の提供」として、質の高い内容を提供しつつも、鑑賞者に寄り添った内容を考慮することも必要である。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>今回の公演は入場無料で、多くの来場者に鑑賞してもらえたことができた点が大きな成果である。特に、質の高いステージを無料で提供したことにより、普段コンサートに足を運ばない層の来場につながった。</p> <p>子どもから高齢者まで幅広い年齢層の観客が見られ、来場のハードルが低い公演としての役割を果たしていた。さらに、大ホールの音響が良く、演奏の響きが客席まで十分に届いていた点も評価された。また、音楽に視覚的な演出を取り入れることで、不慣れな来場者でも楽しめる内容となり、飽きさせないコンサートの手法として効果的に機能したと考えられる。</p> <p>【課題】</p> <p>「誰でも鑑賞できる機会の提供」として、質の高い内容を提供しつつも、鑑賞者に寄り添った内容を考慮することも必要である。</p>

			<p>摘する不満の声がいくつかあり、「居心地の良い空間」の実現には難を残した。</p>	<p>鑑賞マナーに不慣れな来場者が気になる場面があり、開演前に映画館のようにマナー啓発の映像を流すことや、プログラム裏面に子どもでも理解しやすいイラスト付きの注意書きを掲載するなどの工夫が求められる。</p> <p>また、第二部ではピアノがメインであったにもかかわらず、大ホールでの演奏にふさわしい種類のピアノではなかった点が残念であり、楽器の選定にさらなる配慮が必要である。</p> <p>さらに、客席での咳の多さも気になったが、観客を制限することは現実的ではないため、体調不良時の来場を控えるよう事前にチラシ等で周知するなどの対応が考えられる。</p>
		<p>幅広い年齢層へ情報が届くよう、ターゲットに合わせた広報を行う。</p> <p>大人～シニア層に向けては、情報の入手先として上位に挙げられる「チラシ」を配布し、子ども向けとして、大人向けとは異なるデザイン・切り口の「チラシ」を配布する。若年層に対しては、SNSも駆使しながら情報発信に努める。</p> <p>このSNSでは、投稿頻度を増やし、閲覧者の目に留まるようコンテンツを充実させることを目指す。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 新聞記事やチラシ・ポスターなど各種広報の成果で入場者が定量目標の 630 人を上回った。</p> <p>【課題】 美しいチラシで、目を引くデザインであった反面、「内容が伝わりにくかった」という声もアンケートの中でみられた。</p> <p>美しさだけではなく、ターゲットに合わせ、興味の惹かれる情報を分かりやすく打ち出すなど工夫が必要であった。SNSの駆使を行動計画に掲げたが、アンケートからはSNSでの集客効果は高くない、実際にSNSの使用頻度の高い 20 代の入場者数が少ない結果となった。効果的なSNSの活用が課題として残った。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 一定の観客を呼ぶことができ、定量目標を上回る来場者を得られた点は大きな成果である。また、当日は音楽とともに会場全体の雰囲気を楽しむ参加者の姿が見られ、芸術文化の魅力を広く伝えることができた。</p> <p>また、SNSでの発信だけでなく、手に取る形のチラシの効果が来場者増加に寄与した点も評価できる。特に、大人向けのチラシは美しいデザインであり、興味を持って来場した観客が多かったことから、企画自体の魅力が評価されたといえる。</p> <p>【課題】 一方で、チラシのデザインは優れていたものの、内容がすぐに理解しづらい点が指摘された。チラシを見ただけでコンサートの内容が具体的にイメージできる工夫が求められる。</p> <p>また、大人向けのチラシには絵画作品展が同時開催され</p>

				ることが詳しく記載されていたが、子ども向けのチラシにはコンサートの情報が少なく、分かりにくさにつながった可能性がある。「誰でも鑑賞できる機会の提供」を考える上で、情報の伝わりやすさをさらに工夫する必要がある。
【前年度の課題】 ※前年度評価対象外				
文化芸術が育む・文化芸術を育む人づくり	子どもたちがアートを鑑賞、体験、実施する機会の充実	<p>本公演の関連企画として、昨年までとりアート中部で「次世代育成」をテーマに掲げ実施していた「未来をえがこう！絵画コンクール」を引き継ぎ、今年度は鳥取県内小学生を対象とした「未来をえがこう絵画作品展」を実施し、全ての応募作品は同館のリハーサル室で展示する。</p> <p>併せて、本公演第二部の演出として全作品を投影することとし、鑑賞するだけではなく、自分の描いた絵で公演を創るという素晴らしさ・魅力を感じ、自分も参加をしているという楽しさを味わう機会を提供する。</p> <p>また、応募対象は小学生であることから、その保護者・家族・関係者の来場も促すことに繋げる。</p>	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】</p> <p>昨年度までの、とりアート中部事業の積み重ねてきた成果を引き継ぐものとして、子供による絵画の応募と展示を実施した。</p> <p>併せて「推し作品投票」を実施し、自分が描いた以外の作品も鑑賞する環境を作ることにより、様々な感性や表現があることを知ってもらう機会となった。</p> <p>また、展示だけではなく、コンサートにも公演の一部を自分の描いた絵画が彩るといって、一種の参加型のイベントとすることで、応募児童とその家族が、来場するきっかけを作ることができた。</p> <p>保護者や家族も大変喜んで様子や、「来年も絵を描いて参加したい」という児童からの要望も複数あり、自分の作品が映し出されることは“自信”にも繋がったのではないかと。継続することにより、絵画や音楽への関心も高まると考える。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>県立美術館の開館前に子どもたちから絵画を募集し、音楽を通して芸術の素晴らしさを伝える取り組みは、大きな成功を収めた。絵画を通じて美術の楽しさや素晴らしさを、子どもたちだけでなく保護者にも広く伝えることができた。</p> <p>また、子どもたちの未来を描いた絵画作品の応募と展示が実現し、第二部のコンサートステージでスクリーンに映し出されたことによって、作品と音楽のコラボレーションが生まれた。この演出により、子どもたちの意識も高まり、次につながる貴重な機会となったと評価できる。さらに、スクリーンでの映像編集によって作品が動いているかのように映し出され、生き生きとした表現が可能となっていた。</p> <p>【課題】</p> <p>「未来をえがこう絵画作品展」の展示場所がリハーサル室であったため、照明が暗く、一部の絵が影になってしまうなど、作品の良さが十分に伝わらない点があった。むしろ、第二部のステージでスクリーンに映し出された際に、初めて作品の細部がしっかりと伝わったと感じる場面もあった。</p> <p>作品をよりよく鑑賞するためには照明が重要であり、展示場所の選定にさらなる工夫</p>

		<p>第二部の演奏者は、鳥取県出身の若手ピアニストとし、様々な楽器・形態での演奏実績のあるピアニスト、大学生として学業に励みながらもピアノと両立させているピアニストと、それぞれ違った背景を持ちながらも音楽に情熱を注いでいる3名が演奏する。</p> <p>これから音楽を始めたい人、今音楽をしている人、辞めようか迷っている人等、音楽への向き合い方のヒントを見つける機会を提供する。</p> <p>また、若手ピアニストを起用することにより、青少年への良い刺激となり、次は出演したいという気持ちを生み、未来のアーティスト育成へも繋げる。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 若手ピアニスト起用により、アーティストを目指す人や、これから始める人にとって、目標を持つことが出来る良い機会となった。また仕事や家庭がある中、忙しい学業の中で演奏活動を行う方々への支援の第一歩となった。</p> <p>行動計画で示した県出身の若手ピアニストが、同じ楽曲「展覧会の絵」をそれぞれ異なる表現で演奏することで、音楽に興味を持つ鑑賞者に画一的ではない音楽の可能性を示すことができた。</p> <p>【課題】 行動目標そのものに対してではないが、「展覧会の絵」の曲想について、元々不穏な曲調の部分のある曲であり、未来をテーマに描いた子供の絵画に合わせるにはそぐわない場面もあったことは反省材料である。表現は芸術家であるピアニストが主体ではあるが、第二部は事業の主旨を踏まえた演奏内容となるような配慮が必要だった。</p> <p>例えば、“今年はこの曲と共にスクリーンに投影される”と作品募集時に周知することも、1つの方法だったと思う。</p>	<p>が求められる。天候が良ければ、より明るいアトリウムで展示することで、鑑賞環境を改善できた可能性がある。</p> <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 地元アーティストと子どもたちの絵画とのコラボレーションは、新しい表現方法の可能性を示した点で意義深い取り組みであった。</p> <p>また、鳥取県出身の個性の異なる若手ピアニスト3名を起用したことは、演奏者自身にとって貴重な経験となっただけでなく、活動支援の観点からも意義があった。アンケートからも、三者それぞれの演奏が楽しめたことがうかがえる。今後の企画として、子どもたちを含めた若手アーティスト向けに、テーマに沿った公募やオーディションを実施し、選ばれた演奏者が絵や作品とコラボする場を設けることも、未来につながる第一歩となる可能性がある。</p> <p>【課題】 選曲については、子どもたちの作品により合う楽曲を選ぶ余地があった。「展覧会の絵」は各絵画からインスピレーションを得て作曲された作品であり、その狙い自体は理解できるが、子どもたちの未来をテーマにした作品と曲調が合わず、特に前半では暗い印象を与えてしまった。より明るい楽曲を取り入れることで、テーマ性がより明確になった可能性がある。</p> <p>また、ピアニスト3名の演奏自体は評価されたものの、「展覧会の絵」は冒頭の「プロムナード」から終曲の「キエフの大門」までが一つの作品であり、途中で演奏者が入れ替わり、礼や拍手が入ることに違和感を感じる場面があった。そのほか、パンフレットに「プロムナード」が記載</p>
--	--	---	---	--

				されていなかった点も気になった。企画段階での曲目や構成をさらに熟慮することで、より一貫性のある公演にできたのではないかと考えられる。
	【前年度の課題】 ※前年度評価対象外			
文化芸術による元気な地域づくり	住民が、地域の「宝」に触れたり、良さを認識したりする機会の創出	来年春開館する鳥取県立美術館との連携企画とし、美術作品の魅力を体感する機会を提供する。 題材として、鳥取県北栄町出身の洋画家・前田寛治を取り上げ、前田の作品と、同時代の西洋絵画を紹介することで、鳥取が生んだ名手について認識を高める機会を提供する。 また、前田の生涯を、鳥取県の詩人・漆原正雄氏によるオリジナルの詩と共に紹介し、より前田寛治、美術作品へ親しみやすくなる工夫をする。 上記を通して、美術館の魅力を発信し、美術館の注目度を上げることで来場者の増にも寄与したい。	達成度：達成 【成果】 冒頭のアート紹介の映像で、開館に向けた気運を高めた。前田の作品解説を、作品が描かれた背景やその時代の前田の境遇などを「詩」の朗読で表現することで、鑑賞機会が少ない県民でも、作品への理解が深まり、鑑賞の手助けとなった。タッチやモチーフだけでなく、描かれた背景に思いをはせることも鑑賞方法の一つであることを示し、美術館での作品鑑賞に対する心のハードルを下げ、美術館に行きやすい気運を高めることにつながることができた。	達成度：達成 【成果】 音楽と美術を融合させたコラボレーションにより、これから開館する県立美術館への期待感を高めるとともに、美術作品を美術館で鑑賞するという、鳥取県ではこれまであまり見られなかった新しい芸術の楽しみ方を提案することができた。冒頭のアート映像も効果的に活用され、その魅力を来場者に存分に伝えることに成功していた。 また、絵画を題材にしたコンサートという形で、美術館開館への関心を高める企画となった。今後、開館後には鳥取県に縁のある芸術家を紹介したり、全国の芸術家を招聘するなど、さらなる文化芸術の振興につながる展開が期待される。
	地域の「宝」を守り、活用する取組	【前年度の課題】 なし		
達成度集計(※5)		(14/18) ≒77.7%		(13/18) ≒72.2%

【定量目標・実績】

	目標	実績	(参考) 昨年度実績
④ アンケート回収率 (%)	70%	49.2%	—%
⑤ 観客満足度 (%) (※6)	80%	82.2%	—%
⑥ 入場者数 (名) (※7)	630人	公演683・展示248人	—人

【自己評価総括】

<p>【成果】</p> <p>・県内における美術作品展示のフラッグシップとなる県立美術館と舞台芸術公演の核となる倉吉未来中心が隣接することは大きな意義があるが、同時に展示系と舞台系のコラボというのはアイデアとして難しい面もある。その中において、県出身で地元・中部の著名な洋画家である前田寛治の作品を、彼が活躍した時代の楽曲の演奏に合わせて上映し、作品紹介も学芸員によるギャラリートークのような解説ではなく「詩」の朗読により、前田の当時の状況や世相と描いた背景を鑑賞者に想像させ、本物（実物）の絵を見たいと思わせる内容の</p>
--

コラボイベントに仕上がった。

- ・子供たちの絵画には無限の可能性があり、県内の子供が描いた絵画を上映する第二部とリンク（＝同じ催事と）することで、アンケートの声にもあるが、この子供たちの中から「第二の前田」が誕生するかもしれないという、未来への希望も抱かせるものとなった。
- ・鳥取県ケーブルテレビ協議会の協力のもと、本公演を収録した番組を県内ケーブル局（4局）で放映することとしており、当日鑑賞できなかった県民にも広く鑑賞の機会を提供できた。

【課題】

- ・アンケート回収率について、大ホール催事で50%近い回収率を上げているのは一般的には合格ラインといえるが、目標設定が高いこともあり、回収率が定量目標を下回った。満足度が目標にわずかだが及ばなかったのも反省するところである。一方で入場者数は定量目標を超える成績を残せた。
- ・内容については、第二部の楽曲「展覧会の絵」の曲想について、元々不穏な曲調の部分がある曲であり、未来をテーマに描いた子供の絵画に合わせるにはそぐわない場面もあったことは反省点である。表現は芸術家であるピアニストが主体ではあるが、第二部は事業の主旨を踏まえた演奏内容となるような配慮が必要だった。
- ・広報宣伝については、鳥取県の県民性やニーズに沿っており、より効果のある方法で実施するところが望ましい。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・今後、同様の企画を継続するにあたっては、絵画、音楽、詩その他、アート全般の質を保つこと、それらを鑑賞者に易しく、親しみやすく紹介する工夫を凝らすことが必要である。
- ・アンケートの声から、鑑賞マナーの悪さを指摘する声が複数ある。鑑賞者の育成も文化芸術振興にとって大切なことであり、継続的に鑑賞マナー向上を訴えていく必要がある。

【総括】

【成果】

<第一部>

・前田寛治の作品と、その時代の楽曲および詩の朗読を組み合わせた演出が、鑑賞者に深い印象を与え、「実物の絵を見たい」という感情を引き出していた。これにより、美術館に足を運ぶきっかけとなったことは大きな成果である。これは、音楽を通じて視覚的効果を高めたコンサートの工夫によるもので、芸術鑑賞に慣れ親しんでいない来場者にも楽しんでもらうことができたことは、美術だけにとどまらず、芸術の普及に大きな役割を果たしたと言える。

<第二部>

・地元アーティストと子どもたちの絵画のコラボレーションを通じて、新しい表現方法の可能性が示され、子どもたちや保護者に芸術の素晴らしさを伝えることに成功していた。また、自分で描いた絵がスクリーンに映し出されたり、動いたりする演出は、子どもたちがより主体的に芸術に関わる機会を生み、未来への希望を感じさせる機会であった。こうしたデジタル技術やアートコレクティブとのコラボレーションを取り入れることで、今後もより創造的な芸術表現を展開することが期待される。

・幼少期に質の高い音楽や芸術に触れることの重要性が改めて認識された。今回の公演では、子どもたちが本格的な芸術に触れる機会を得ることができたが、今後はどのような方法で提供し、どのような形で鑑賞者に届けるかを工夫することが求められる。

<全体>

・人々にとって、絵画をはじめとする芸術も音楽ももっと身近に感じられる存在であるべきである。その為には固定概念に囚われずに、いろいろな企画を立ち上げていっていただきたい。

・NHK交響楽団メンバーや鳥取県出身の演奏者の演奏が大ホールで鑑賞できたこと、また「自分の描いた絵がコンサートを作る」という期待感は、満足度につながったと思う。

<県立美術館の開館に向けて>

・音楽と美術のコラボレーションを通じて、鳥取県立美術館の開館への期待を高めることに成功した。特に、《Peinture × Musique～絵画と音楽で紡ぐ時間》をテーマに、芸術と音楽という密接な関係を持つジャンルで、質の高いコラボレーションが企画され、意義深い取り組みとなった。また、本企画を通じて、主催者の意図が

鑑賞者に伝わる内容となり、美術館の開館に向けた関心がより一層深まった。

【課題】

＜演出・構成等＞

- ・プログラム構成について、一部内容が子どもたちの絵画と合わない場面があった。特に、「展覧会の絵」の曲調が未来をテーマにした絵画と調和せず、選曲に配慮が必要だった。しかし、ムソルグスキーが絵画からインスピレーションを得て作曲した背景を解説することで、子どもたちの理解が深まった可能性がある。
- ・子どもたちの絵の展示環境や、ステージの構成・演出・選曲において、誰もが鑑賞しやすい企画とするための工夫が求められる。質の高い音楽や芸術には大きな力があり、「子どもだから」と質を下げる必要はなく、提供の仕方次第で十分に伝わると考えられる。
- ・第一部と第二部の選曲には検討の余地があり、幅広い客層をターゲットとしたことで、両者の演出に統一感を欠く部分が見られた。今後は、より一貫性を持たせる工夫が必要である。

＜広報＞

- ・チラシのデザインが優れていた一方で、内容が直感的に理解しづらい部分があった。今後は、チラシを見ただけでコンサートの内容をイメージできるよう工夫する必要がある。

＜会場運営＞

- ・鑑賞マナーの悪さを指摘する声があったことは課題であり、映画館のようにマナー啓発を促す映像の活用を検討する必要がある。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・今後も音楽と美術のコラボレーションという新しいアプローチを継続し、芸術全般の魅力を幅広い世代に伝える努力を続けるべきである。
- ・鑑賞マナーの改善は、文化芸術を振興するための重要な課題であり、来場者への継続的な啓発が求められる。そのためには、知らないことを知る機会を提供することも大切であり、鑑賞マナーの普及に向けた取り組みの充実が今後期待される。

第 22 回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート 2024 展示事業

令和 7 年 1 月 11 日(土)・13 日(月・祝)エースパック未来中心

令和 7 年 1 月 17 日(金)～19 日(日)米子市文化ホール

令和 7 年 1 月 24 日(金)～26 日(日)とりぎん文化会館

【文化芸術事業評価シート】

目的	自己評価			評価委員による評価
	取組目標 (※1)	行動計画 (※2)	達成度(※3)及び 評価理由(※4)	達成度及び評価理由
文化芸術 に親しむ 環境づく り	誰もが文化 芸術に親し むことがで きるように するための 環境づくり	鳥取県にゆかりある、美術 系の大学・短大・専門学校 等の高等教育機関に在学 中の学生の作品を中心と した展示事業を行うこと で、彼らの作品や多様なジ ャンルの表現を、県民をは じめとする多くの人々に 広く関心をもってもらう 機会とする。	達成度：概ね達成 【成果】 アンケート記述にて、「若者の 作品を見る機会が少ないため、 見られてよかった。」「若い人に 発表の場があるのはとても有意 義でよい企画だった。」という内 容が多く見られた。若手アーテ ィストの作品に広く関心をもっ てもらうという当初の計画の意 図が、来場者にも明確に伝わ ったといえる。 また、様々なジャンルの作品 展示に満足する感想から各々の 来場者が好きな作品が様々であり、 多様なジャンルの表現を楽 しむ機会を提供できた。 【課題】 来場者が当初目標を下回っ た。これは、とりアート事業の 中で展示事業を独立した形で開 催することが初めてであり、来 場者数が未知数であった部分も あるため、次年度以降は、今回 の結果を踏まえ、より適正な目 標値を定め、広報等集客に努め る必要がある。	達成度：概ね達成 【成果】 会場には、グラフィックデ ザイン、建築作品、ファッシ ョンなど多様なジャンルの展 示が並び、より多くの来場者 の関心を広げることにつなが っていた。 アンケートに「県内にたく さんのアーティストがいたこ とに驚いた」「若いアーティ ストさんの作品を観ることはな かなかないので、観られてよ かった。」「レベルが高かった」 といったコメントもあり、来 場者に新鮮な刺激と感動が生 まれた。 東部から西部まで鳥取県に ゆかりのある若手アーティ ストの作品に触れる機会を提 供したことは、大きな成果であ った。 【課題】 広報活動、集客はどの企画 も悩ましいところ。ターゲッ ト層の絞り込みなど、事前の 計画やすり合わせが必須。 また、「お住いの地域」のア ンケート結果を見ると、「その ほか」は 25 名と少なく、来場 者のほとんどは、県民であ ったことが予想される。 県内に留まらず、県外にも 広くイベントを周知し、来場 につなげることが出来ればな お良い。
		県民の鑑賞機会を広げる ため、東・中・西部で巡回 展示を行う。会場に関して も、通常の美術館での展示	達成度：達成 【成果】 来場理由のデータを見ると、 「偶然通りかかった」が約 20%	達成度：達成 【成果】 文化施設の入口から見える 位置に展示されていたので

		とは異なり、美術鑑賞が目的の人のみならず、様々な人々が来場する地域の文化施設で開催することで、普段は作品鑑賞をする機会がない方の獲得を目指す。 また、入場料は無料とし誰もが気軽にアート鑑賞ができる機会を提供する。	を占め、最も多い。不特定多数の目的を持った人が出入りする施設での開催により、普段は作品鑑賞の機会がない方にも多く来場いただくことができた。 アンケート記述からも、「様々な作品が見られてよかった。」という内容のものが多くみられ、誰もが気軽に多様なアートに触れる機会を提供することができた。	(西部)、アート鑑賞とは別の目的に来館した人にも興味を持ってもらうことが出来た。 「ふらりと立ち寄ったが、どれも大変すばらしい作品でした。感動しました。」「偶然通りかかり、雪の中、出かけて素晴らしい作品に出会い、今年一年とてもいいスタートができました。」というアンケートからも、好印象だった様子が伺えた。
	文化芸術活動者の発表や創造の機会の提供	地元での発表機会の少ない学生をメインとした展示内容にすることで、これからの活動を後押しする機会とする。また、実際に地元の方々に作品を鑑賞してもらうことで、アートを学ぶ学生たちの今後の創作意欲向上の一助とする。	達成度：概ね達成 【成果】 地元で発表したいという意欲を持つ学生を支援する展示となり、来場者も県内外で学ぶ学生の作品に触れることができる機会となった。 アンケートでは、各々の来場者がそれぞれ自分の良かったと思う作品を記述しており、出品者の意欲向上につながったといえる。 また、予定していた3会場の面積に対して必要な作品数を確保することができ、壁面に対して十分な作品を集めることができた。 【課題】 アンケートの結果、出品数が少ないという意見が多かった。当初の事業計画で予定していた点数は30点であり、実際の作品数は29点であったため、ほぼ予定通りの点数を展示することができたが、比較的サイズの小さい作品が多く集まり、小規模な印象になってしまったこともあり、今後はより多くの展示数を検討したい。	達成度：概ね達成 【成果】 学生の作品はそれぞれの学校内または大会での展示、発表のみであり、広く一般の皆さんの目に触れる機会が少ない。 アンケートで評価されたことは、さらなる創作活動を継続する励みになった。 若手アーティストの選考、事前リサーチや作品のレイアウトなど準備の段取りで、努力が垣間見られた。 ほぼ当初の事業計画通りの出品数を展示出来ており、行動計画の目的は達成していた。 【課題】 アンケートの顧客満足度が目標にあと一歩であった。 今後は、出品数の目標を増やして、来場者が物足りなさを感じることを解消し、満足度の高いイベントに成長することを期待したい。
	【前年度の課題】 ※前年度評価対象外			
文化芸術が育む・文化芸術を育む人づくり	若い世代による企画・運営への参加促進や人材育成	鳥取県にゆかりのある美術系学生の作品を中心とした展示とすることで、彼らの今後の活躍を後押しするきっかけにつなげる。県内の美術館関係者、高校美術部のネットワークとも協力し、現在、大学等で	達成度：概ね達成 【成果】 充実した作品制作を行う学生の作品発表となり、一般の県民はもちろん、地元の関係者にも紹介することができた。 出品者の中には、既にアーティストとしての実績を徐々に積	達成度：達成 【成果】 各アーティストの作品から感性、思いを感じることができた。インスタグラムのアカウントも表示してあり、展示で完結せずに、他の作風やアーティスト個人としての興

	<p>作品制作に励む学生に参加を呼び掛けることで出展を促す。</p>	<p>み上げている学生もおり、彼らの知名度向上の一助となったといえる。</p> <p>【課題】</p> <p>出品する学生の発掘に苦戦した。高校美術部の先生をはじめ、主に県内の美術教育関係者の伝手を頼りに学生の応募を募ったが、県外に出ている学生の情報を得ることが難しく到達出来なかった学生も多かった。卒業後の連絡先を把握している機関がないことも一因である。</p> <p>来年度以降も、若手作家の作品は紹介していきたいと考えているため、今回取りこぼした学生にも繋がることできるよう、募集内容の周知方法に検討が必要。</p>	<p>味関心、応援やファン化などの可能性があった。若手にとってチャンス、機会がある所も人口が少ない鳥取県の強みでもある。</p> <p>今回の展示をきっかけに、アーティスト、県内の美術館関係者、高校美術部とのさらなるネットワーク強化が望まれる。</p>
	<p>鳥取から美術系ジャンルを専門的に学ぶ若者を広く紹介することで、美術系分野に興味をもつ子どもたちが自身の可能性を広げるきっかけにつなげる。そのために、広報チラシを中学校・高校、絵画教室等を中心に配布し、若年層の来場を呼び掛ける。また、SNSでの発信については出展者へも協力を仰ぎ、彼らと同年代の若い層の来場につなげる。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>アンケートの年代別来場者は、30代以下は40代以上の年代と比較して半分の数値であるが、どの年代も大きな差はなく満遍なく来場していることから、若年層の来場については一定の成果があったといえる。</p> <p>来場者の中には、出展学生と同年代の来場者や、美術部で顧問の先生に紹介されて来たという高校生の姿、親と一緒に作品について話しながら鑑賞する児童や幼児も見られ、次世代の子どもたちに美術鑑賞の機会と創作の楽しさを伝えることができた。</p> <p>また出品者の関係者からは、高校卒業後の活動を見ることができて嬉しかったとの声もあった。</p> <p>【課題】</p> <p>若年層の来場率には一定の成果があったものの、全体と比較するとやはり若年層の来場者率が低かったことが課題として挙げられる。県内の高校へは美術部を中心に配布・配架をしてもらえるよう全ての学校に配布を行ったが、SNS等での発信が弱く、若年層へのアピールが不足</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>初めての試みの中で、来場者の年齢層に大きな偏りが無いこと。様々な手応え、収穫を得られた。</p> <p>文化施設内での展示であったので、他の目的で訪れた親子連れなども、ちょっと見てみようという気軽さがあった。回を重ねればより多くの若年層の来場が期待できる。</p> <p>【課題】</p> <p>アンケートの「興味を持った広報物」の内訳をみると、新聞による効果が一番出ており、Facebook、Xは0、Instagramが3とSNS広報の数値がまだまだ少ない。</p> <p>SNS発信に関しては事務局に加えて、出展者の積極的なPRが望まれる。</p> <p>「作家間での交流やフィードバックをもらえる機会があったのか」という意見もあり、出展者によるギャラリートークの開催があると、同年代の若い層に興味を広げるきっかけ作りとなる。</p>

			していた点は否めない。来年度以降は、若年層が足を運ぶよう、SNS 広報をより強化する必要がある。	
【前年度の課題】 ※前年度評価対象外				
文化芸術による元気な地域づくり	地域における文化芸術の活性化	若い学生が制作した、多様なジャンルの作品を展示することで、県民がアート鑑賞の楽しみ、新しい発見を得られ、日常的にアート鑑賞や創作の機会が増えるきっかけにつなげる。また県内での発表の機会を創出することで、出展者自身を広く周知する場とし、将来的なアーティストと地域の連携へのきっかけづくりとする。	達成度：概ね達成 【成果】 絵画だけでなくファッションや建築作品もあり多様なジャンルを楽しんでいただけた。切り絵やファッション作品は特に創作のインスピレーションを受けた鑑賞者も多くいた。アンケート記述からも、上記についての感想や若手アーティストの作品への期待等が多く記載されており、多様な作品に触れる醍醐味を感じていただける機会となった。 【課題】 出展者の情報を展示後も継続的に発信する、地域と結ぶことができたりするとさらに連携の広がりや出展者の利益にもつながると感じた。	達成度：概ね達成 【成果】 今回の展示企画は、来場者が、若い感性で創作された作品から新しい世界観に触れたり、心が動く体験の場となった。 ジャンル別の展示企画が多い中で、今回のような多くのジャンルの作品を一堂に展示することは、それぞれのアーティストの刺激にもなった。 50%以上の方が催しの感想を「満足」と回答しており、地域における文化芸術の活性化に一役買った。 【課題】 県外在住者や将来的なアーティストと地域の連携を図るには、アーティストたちの日頃の活動を発信出来るような、「ふるさと鳥取」を基軸とした共通の場やインターネット媒体等があることが望ましい。
		【前年度の課題】 ※前年度評価対象外		
達成度集計(※5)			(13/18) ≒ 72%	(14/18) ≒ 77%

【定量目標・実績】

	目標	実績	(参考) 昨年度実績
⑦ アンケート回収率 (%)	70%	43%	—%
⑧ 観客満足度 (%) (※6)	80%	76%	—%
⑨ 入場者数 (名) (※7)	1,200人	978人	—人

【自己評価総括】

【成果】 鳥取県出身、在住の美術分野を勉強している学生の作品を、広く一般に紹介することができた。また、アンケート記述からも、若手アーティストの作品への期待や、多様なジャンルの作品展示への関心が多く読み取れ、本事業の趣旨を多くの来場者と共有することができた。一般の県民の方々にも、鳥取の未来を担う若手アーティストへの関心を広げる機会となる大変有意義な事業となった。

【課題】

集客率に関して、会場によっては入場が難しい（場所が分かりづらい、誘導しづらい）場所であったため、お客様の誘導に苦戦した。会期中に同施設内で開催したとりアート公演等の来場者が立ち寄ることで集客につながった部分も大きかったといえる。一般学生の展示単体だけでは、集客に繋がりにくいため、今後はプロや話題性のある作家の作品展示など、目玉となる企画が必要。

作品の収集に関しては、高校卒業後の情報を得ることが難しいこと、学生対象は初の試みであったので様子見で出展しなかった学生もいた（学生によっては積極的に出展する者とそうでない者に明確に分かれる）。制作の支援ということを考えると展示、その後に各出展者を次の第三者につなぐきっかけ作りも必要である。

また、本会期と同様の時期に、「あいサポート展示」や「ジュニア県展」といった類似した展覧会の開催も重なっていた。開催時期の調整はもとより、今後の本事業への関心度、集客率を高めていくためにも、これらの展覧会とどのように差別化を図っていくか検討していく必要がある。

【その他事業に関する意見、感想など】

今回の展示事業は、とりアートの展示企画としては、初めて独立した事業として行ったものである。アンケートの来場理由では、「偶然通りかかった」が最も多く約30%であったが、次いで「内容に興味があった」（約20%）、「美術に関心があるから」、「若手アーティストの作品に関心があるから」（それぞれ約10%）と、今回の企画や美術への関心、若手アーティストの作品への関心が高いことも分かった。類似した展覧会との差別化を図りつつも、これらの展覧会が長年をかけて徐々に県民の方々へ認知されていったように、本事業も広く浸透していき、多彩な文化芸術イベントが楽しめる地域になるよう努めていきたい。

【総括】

【成果】

<イベント内容>

- ・とりアート事業の中で展示事業を初めて独立した形で開催出来たことが、まずは大きな成果であった。学生に発表する場を提供出来るように、開催に向けてご尽力された委員会の皆様に感謝する。
- ・若手のアーティスト作品を鑑賞する場は県内では少なく、来場者に関心をもってもらう貴重な機会を創造出来ていた。
- ・若者にスポットを当てた企画展示、新しい試みは大成功であった。
- ・デザインはAIやアプリでも再現できる時代。そうしたためぐるしく変化する環境化で若い世代だから表現できる感性、好きなこと、今感じていることが作品に込められている。商業ベースではない点も若さの魅力。多様なジャンル、自分にはない感性や世界観に触れて元気が出た。ブラッシュアップして来年度の取り組みも期待している。

<会場>

- ・一般の方が行き来しやすい文化施設の一部で、若い学生の様々なジャンルの作品を一堂に展示することによって、他の目的で訪れた来場者の関心をひき、広く一般の皆さんが学生の作品に触れる機会を創出したことは大きな成果であると思う。

【課題】

<イベント内容>

- ・第1回目で手探り状態、手応えも継続する意義も見い出せたと感じる。課題点やプロや話題性のあるアーティストとのコラボなど、改善の余地もあり今後の展開に期待している。
- ・今回のリストをベースに継続していくことが大切であると思う。

<作品募集>

- ・今後も継続して開催が出来るように、作品募集は早めに行なって作品点数の充実を図りたい。
- ・今回、企画展示を見送ったり、積極的になれなかった背景をふまえて「この企画展示にエントリーしたい！」と創作活動のモチベーションが上がったり、新しい出会い等、参画する若手のメリット積み重ねて、人と人の繋りで輪を新しく構築していく未来が楽しみである。

<広報>

- ・さらにこの事業が県内外の鑑賞者に認知されるように、広報も早めに取り掛かりたいところである。

<集客>

・今回の来場理由が「偶然通りかかった」がアンケート上で最も多かったので、「内容に興味があった」「広告物を見て興味をもった」等の項目を伸ばしていきたい。

【その他事業に関する意見、感想など】

・中部会場のエースパルク未来中心では、事業と同じ日に「あいサポート・アートとっとり展」が開催されていた。入り口すぐのフリースペースが会場であった「あいサポート・アートとっとり展」の方に、偶然通りかかった人が多く流れていた印象であった。

・会館の2階に会場のあった本事業は、複数の看板が立てられており、来場者が分かりやすいような導線を作る工夫が見られたが、目立ちにくかったのが残念であった。

・「あいサポート・アートとっとり展」は、スタッフ数も多く、来場者プレゼントやメッセージボードを設置するなどの工夫も有り、来年度の企画内容の参考にされてはどうか。

・若者が主役なのに、会場に作品を展示した若者がいないのが残念であった。日時限定でもいいので、若手アーティストに会える、直接、話ができたり交流が楽しめる人員の確保と予算組みが必要。普段、接する機会がないからこそ、パッションや感性のリアルな交流は来場者だけでなく表現者の双方にとっても心豊かになると思われる。

・この企画展示だからこそその特別感の演出も期待している。

【文化芸術事業評価シート】

		自己評価		評価委員による評価
目的	取組目標 （※1）	行動計画 （※2）	達成度(※3)及び 評価理由(※4)	達成度及び評価理由
文化芸術 に親しむ 環境づく り	誰もが文化 芸術に親し むことができ るようにする ための環境 づくり	<p>より多くの県民へ来場を呼び掛けるため、巡回展会期中の新聞紙面による広報を充実させる。</p> <p>また、若い世代への効率的な周知のため、YouTube を使用した動画広告について、年齢設定や時期を見直した上で実施する。</p> <p>【目標値】 〈30 代以下の鑑賞者割合〉 14% (第 67 回実績:13.2%)</p>	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】 巡回展における広報の見直しを行った結果、アンケートにおける 30 代以下の鑑賞者の割合は 14.1%となり、目標を達成した。新聞紙面による広報では、これまで鳥取会場開幕時に掲載していた受賞作品紹介（全 4 回）を、巡回展（米子・倉吉）開幕時にも分散して掲載した。また、YouTube の動画広告では、配信時期を巡回展の会期に合わせて 10 月 5 日から 1 ヶ月間としたことで、巡回展の若い世代の鑑賞者割合が増加した。どちらの広報にも受賞作品の画像を使用したことで、多くの県民の目に留まりやすく効果的であった。</p>	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】 行動計画の目標である 30 代以下の鑑賞者割合が目標達成できた。 新聞や SNS など広報の在り方を工夫した結果と考える。特に、チラシやポスターに加え新聞紙上での呼びかけは効果的であった。</p>
		<p>あなたが好きな作品賞投票について、より気軽に投票してもらえるよう記入用紙のレイアウトを変更するとともに、受付での声掛けを行う。投票をきっかけとして、多部門の作品を一度に鑑賞できる県展の魅力や、それぞれの分野の楽しみ方を発見してもらえる機会とする。</p> <p>【目標値】 〈あなたが好きな作品賞投票率〉53% (第 67 回実績:51.5%)</p>	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】 投票を実施した 3 会場（鳥取・米子・倉吉）の投票率は 56.2%となり、目標を達成した。投票欄を用紙おもて面の上部に移動させたことで、鑑賞前に投票欄の存在に気づき、意識しながら鑑賞することができたと思われる。アンケートでは「投票のために普段は見ない部門も見てみたらとても面白かったので、続けてほしい」という声もあり、様々な部門の魅力に気づく機会となっている。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 あなたが好きな作品賞投票欄をパッと目に入る、鑑賞者の視点に立ったレイアウトに変えた効果が、目標率達成という結果に表れていた。 受付でも積極的に声掛けが行われていた結果、投票率の向上に一役買ったものと考えられる。</p> <p>【課題】 作品賞投票は、鑑賞者にとって参加型であり、自分たちも関わっているという面白さがある。今後も続けていきたい取組だが、投票対象をいくつ選ぶのかということや投票の仕方の記述に、鑑賞者等に疑問や意見があるのであれば、前年度の課題も含めて検討していただきたい。</p>
		<p>【前年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回展が進むにつれて、若者の来場率が下がる原因について分析が必要。 		

		<p>・若者に向けた広報について、興味を引き付けるイメージの打ち出し方や広報実施の時期についてより工夫が必要。</p> <p>・若者の投票率が低いことから、より気軽に投票に参加できる仕組みの検討が必要。</p>		
文化芸術が育む・文化芸術を育む人づくり	子どもたちがアートを鑑賞、体験、実践する機会の充実	<p>子どもたちにも興味を持ってもらえるような展覧会の広報を目指し、昨年度に引き続き、明るく目を引く配色やポップで親しみやすいデザインを意識した広報物の作成を行う。</p> <p>また、開催要項やチラシ・ポスターの送付先を見直し、親や祖父母など幅広い世代に県展の存在を知ってもらうことで、子どもたちの鑑賞の機会につなげる。</p> <p>【目標値】 <10代以下の鑑賞者割合> 5% (第67回実績:4.6%)</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 10代以下の鑑賞者割合は4.8%で目標値は下回ったが、初めて来場した割合は73.4%となり、多くの子どもたちに県展の存在を知ってもらうことができた。アンケートでは県展に初めて来場したきっかけとして、「学校で先生に勧められた」「親や祖父母に連れてこられた」という回答が多かったが、「また来たい」という感想もあり、次回以降の鑑賞につなげていきたい。</p> <p>【課題】 会場ごとで10代以下の鑑賞者割合にバラつきがあり、特に倉吉会場は1.9%と全会場で最も少ないため、来年度の県立美術館での開催に向けて広報を工夫する必要がある。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 10代以下の鑑賞者の割合が前回は上回っている。会場によっては、5%という目標値を上回っていることが推測できる。アンケートに、「学校の授業で鑑賞した」という回答があり、学校での広報は子ども達の鑑賞の機会につながっている。保護者が連れて行きたくなるような、教育的効果などをPRしてもよいのではと考える。</p> <p>【課題】 10代の鑑賞率を高めるために市町の教育委員会への働きかけが重要と考える。特に、県立美術館が開館する倉吉では、学校行事・授業などで取り入れることを検討すべきではないだろうか。10代の鑑賞者が増えても、どの年代も増えていけば、全体の中での割合は変わらない。目標設定の検討が必要ではないだろうか。</p>
		<p>創作意欲のある子どもたちに県展へ出品してもらえるよう、昨年度に引き続き、作品募集広報(新聞、SNS)をジュニア県展と一体的に行う。また、ジュニア県展とあなたが好きな作品賞の表彰式を合同で開催し、県内の優れた作家たちの作品を紹介することで、子どもたちがさらにアートに興味・関心を持つきっかけとする。(R1から継続実施)</p> <p>【目標値】 <学生・18歳以下の出品者数割合>15% (第67回実績:13.6%)</p>	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 学生・18歳以下の出品者数割合は10.6%で目標値を下回ったが、高校生4名が奨励賞を受賞しており、子どもたちの優れた作品の発表の場となった。アンケートでは10代以下の来場者の「ジュニア県展とはまた違う絵、作品などがあり、それぞれの良さがあった。」という感想も見られ、子どもたちがアートへの関心を持つきっかけとなっている。</p> <p>【課題】 学生等の出品者の多くは学校で取りまとめて出品しており、作品の制作が間に合わなかった等の理由で今年度は出品数が減少した。作品受付日時を早めに周知し、出品するよう働きかけて</p>	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 高校生の作品が、奨励賞を受賞したことは、未来を担う子どもたちの今後の成長や活躍に大きな期待を持つことができる。出品された作品はどれも感性が生き生きとし、魅力あふれる作品であった。若者が作品を応募する機会が提供されていることは評価に値する。</p> <p>【課題】 学生等の出品者の多くは学校で取りまとめて出品しているならば、早めに周知して作品の制作に繋がるようにすべきである。取組目標でもある、子どもたちがアートを鑑賞、体験、実</p>

			いく必要がある。。	践する機会をより充実するために、触れるアート、ワークショップ型コーナーの併設もあれば、こども達の来場も増えるかもしれない。
	【前年度の課題】 なし			
達成度集計(※5)			(9/12) ≒ 75%	(8/12) 66.7%

【定量目標・実績】

	目標	実績	(参考) 昨年度実績
⑩ アンケート回収率 (%)	53%	55.8%	50.5%
⑪ 観客満足度 (%) (※6)	90%	86.5%	82.9%
⑫ 入場者数 (名) (※7)	8,000人	7,873人	7,309人

【自己評価総括】

【成果】

定量目標①アンケート回収率は目標を達成した。

昨年度までは、表面にあなたが好きな作品賞の投票欄、裏面にアンケートという分離したレイアウトにしていたが、今年度は投票欄をアンケートの上部に移動させたことで、投票欄に記入する流れでアンケートの存在に気づき記入率が上がったとみられる。

定量目標②顧客満足度は86.5%で目標値は達成できなかったが、昨年度からは3.6%上昇した。

アンケートでは、同じ会場に複数回来場して作品をじっくり鑑賞したり、複数会場で鑑賞して会場ごとの雰囲気の違いを楽しんだりした鑑賞者も見受けられた。また、県外からの来場者も増えており、「偶然通りかかって立ち寄ったが、作品数が多く、作者コメントや投票のシステムが面白かった。」という声があり、全体的に満足度が高かった。

定量目標③入場者数の目標値は達成できなかったが、全会場で昨年度より増加したことに加えて、年代別では昨年度と比較して20代以下の鑑賞者割合が増加した。特に例年、倉吉会場は若い世代の来場者が少なかったが、大きく増加した。(R5: 1.3%⇒R6: 4.1%) また、令和4年度から若年層に向けたSNS等の広報に力を入れてきたことで、アンケートにおいて来場したきっかけを「SNSやホームページで知った」と回答した数は71件となり、近年増加してきている。

【課題】

・出品者から作品規格が分かりづらい等の声があり、実際に作品受付時に規格外となった作品も見受けられた。作品規格の見直しを行い、初出品者にとっても開催要項を見やすいものに変えるなど、出品のハードルを下げていきたい。

・鳥取会場では出品目録の在庫数が十分に用意できておらず、配布の制限をしたことで欲しい方に配布が行き届かなかった。作品投票の際に、出品目録を見ながら選んでいる方もあるため、来年度に向けて印刷数を見直して対応することとしたい。

【その他事業に関する意見、感想など】

・あなたが好きな作品賞の投票率は上がったが、会場によって記入用紙の配布の仕方や声掛けが異なっており、投票欄に気づけなかったという声があったため、次年度はこのようなことがないよう改善していく。また、無効票の中には全部門に記入されていたり、1部門に複数の番号が記入されていたりしたものがあり、アンケートにも「3部門に選びきれない」という意見が多く見られる。集計期間が短いことから大幅に投票点数を増やすことは難しいが、関心の高い企画のため、継続して実施していきたい。

・アンケートでは、県立美術館での県展開催に対する期待の声が寄せられており、県民の注目度が高い。これ

を契機として出品数・来場者数増加につながるよう幅広い世代に向けた広報を行っていく。

【総括】

【成果】

<全体>

- ・来場していただいた方の多くは喜んでおられる。県展という大きな事業を行っていくのは大変な事であると思うが、毎年開催していただいていることに感謝する。
- ・顧客満足度は目標値は達成できなかったとしても、昨年度からは**3.6%**上昇したことは素晴らしい。
- ・アンケート結果で、同じ会場に複数回来場する方、複数会場で鑑賞して会場ごとの雰囲気の違いを楽しんだりする方、毎年鑑賞する方が**36%**もいるなど根強いファンがいることが素晴らしい。
- ・アンケートに寄せられた多くの感想から、来場者の関心の高さが伺えた。毎年、楽しみにしている方も多く、県民に定着した事業として評価出来る。
- ・広報など努力された結果、初めて鑑賞する方が**1500**人を超えていることは大いに評価できると考える。

<あなたが好きな作品賞>

- ・「あなたが好きな作品賞」の設定は、鑑賞者の参加型の企画として高く評価できる。
- ・レイアウトを変更するといった具体的改善で、アンケートの回収率を上げることに成功した。

<広報>

- ・若年層に向けた SNS 等の広報に力を入れてきたことで、来場したきっかけを「SNS やホームページで知った」と回答する方が近年増加してきていることに繋がっている。
- ・客層に応じた広報手段や巡回展では自治体広報の活用も重要であると考えます。
- ・時代に合わせて SNS 上の広報にも力が入り、昨年度と比較して**20**代以下の鑑賞者割合が増加する等、一定の成果があった。

【課題】

<今後の県展について>

- ・子どもたちの県展への関心を高め応募や鑑賞に繋げていく必要があり、更なる工夫が求められる。
- ・常連さんの作品は、似たようなテイストになることも多く、新鮮さに欠ける面も有る。新規応募者を増やして、活性化を図りたいところである。

<あなたが好きな作品賞>

- ・「あなたが好きな作品賞」という好企画の投票を増やし投票のハードルを下げるためにも、1 部門 1 点という括りではなく、まさに「好きな作品」を 1~3 点という書き方でも良いかと考える。投票する方の中には、同じ部門に甲乙つけがたい作品もあり、2 点「好きな作品」として投票したい方もあるかもしれない。鑑賞者の参加型の企画だからこそ、次回県展への関心や応募に繋がっていくことが大切な意味かと考える。
- ・会場によって記入用紙の配布の仕方や声掛けが異なっており、投票欄に気づけなかったという声があったことには留意されたい。

<展示>

- ・審査会場は薄暗かったため、倉吉博物館で改めて作品を鑑賞した時に、初めて気がつく作品の良さがあつたと、審査員が講評していた。どの会場も同じような照明の明るさが望ましい。
- ・作品の展示（位置や証明など）やキャプションの字の大きさや濃さや統一性についても改善の余地があるように思う。アンケートに作品の展示位置が低いなどの書き込みがあつたが、作品を生かすためにも展示の位置や照明は大切である。

<広報>

- ・YouTube による動画配信が若い世代の鑑賞者割合が増加したことには効果があつたかどうかは、提示の資料から読み取れない。自己評価の説明データの掲出が必要と考える。

<若年層への対応>

- ・前年度の課題に「若者の来場率が下がる原因について分析が必要」が挙げられているが、どういった分析をしてどんな手立てを打っていくのかよく見えない。
- ・**10**代の若者は来場してどんな感想をもち、どんな運営であれば次回来場するのだろうか知りたいところである。

<審査会>

・審査会（1日目）において、事前申し込みされた見学者の方々は9時半前後からずっと待ってらっしゃったかと思うが、開始予定の10時になっても全く案内もなかった。10時半近くになり、私が近くにいらしたスタッフの方に尋ねたところ「今、審査員の方に注意事項などの説明をしています」と言われた。何も状況がわからず待つのは不安である。せめて「今、審査員の方々に説明をしていますのでしばらくお待ちください」などの状況説明があっても良かったかと思った。

・応募作品が少なかったり、秀でた作品がなかった場合、無理やり大賞など各賞に当てはめなくても、「該当者無し」という審査結果があっても良いかと感じた。

・作品の題名の読み上げは適切だとは思えない。少しずつ改善していただいていることは把握しているが、更なる改善をお願いしたい。

<自己評価>

・成果に対する自己評価が、アンケートの回収率やその内容についてだけなのももったいない。

<その他>

・鳥取会場で出品目録の在庫数が十分に用意できておらず、配布の制限をしたことで欲しい方に配布が行き届かなかったということは残念である。

【その他事業に関する意見、感想など】

<ギャラリートーク>

・ギャラリートークを喜ぶ声が多い。

・ギャラリートークで、審査員の講評を伺いながら作品を改めて鑑賞すると、新しい視点を持つことが出来て、作品への理解が深まった。可能であれば、期間中に数回ギャラリートークが開催されると良い。

<会場>

・日南町で開催し、地元の方からの感謝の声が上がっているように、毎年少しずつ開催地を増やすことはできないものか。

<自己評価>

・東中西部ごとに日時や会場設定が違うこともあり、それぞれの会場でのアンケートの分析をしておられると思うが、目標値の達成度も含めて示す必要があるのではないか。

【文化芸術事業評価シート】

目的	自己評価			評価委員による評価
	取組目標 (※1)	行動計画 (※2)	達成度(※3)及び 評価理由(※4)	達成度及び評価理由
文化芸術 に親しむ 環境づく り	誰もが文化 芸術に親し むことがで きるように するための 環境づくり	上位入賞作品の画像及び 講評を文化政策課ウェブ サイトに掲載し、来場が難 しい方なども含め、時間や 場所の制限なく、子どもた ちによる優れた作品を広く 見ていただけるように する。	達成度：一部達成 【成果】 上位入賞作品の写真と講評をウ ェブサイトに掲載し、多くの方 に見ていただくことができた。 また、ウェブサイトを見た教科 書会社から、図工や美術の参考 作品を紹介するウェブサイト に作品の写真を掲載したいとい う問合せもあり、県外への広がり も見られた。 【課題】 ウェブサイトで作品画像・講評 を閲覧できることについて、学 校に展覧会の開催チラシを送付 する際に併せて案内したり、 SNS を活用する等して、積極的 に周知を行う必要がある。	達成度：一部達成 【成果】 スマホ・パソコンで気軽にチ ェックすることが身近になっ ている昨今において、上位入 賞作品だけではあったが画像 及び講評をウェブサイトに掲 載した取組みは評価できる。 来場が難しい方なども含め、 時間や場所の制限なく作品を 広く見ていただけるようにす るという当初の目的は一定程 度達成された。 【課題】 初めてのウェブサイト掲載で あり、このような取組みを行 っていることの周知が十分で なかった。チラシ・ポスター に上位作品をウェブサイトで 閲覧できるという案内をわか りやすく明示するほか、入口 付近の通常は作品リストを置 いてあるところに案内を表示 したり、東部会場で行われて いたように口頭での説明をす るなど周知方法に一層の工夫 が必要である。 閲覧までが不便である。可能 であれば、検索した時に一旦 県のサイトへ行き、そこから ジュニア県展を探すのでな く、例えば「デジタルジュ ニア県展」といったネーミング の特設サイトをつくり QR コ ードをポスター・チラシに掲 載してサイトに直接行けるよ うにするなどの工夫が必要で ある。
		【前年度の課題】 ※前年度評価対象外		

文化芸術が育む・文化芸術を育む人づくり	子どもたちがアートを鑑賞、体験、実践する機会の充実	<p>子どもたちに作品出品や展覧会に興味を持ってもらえるよう、広報物（募集要項、展覧会チラシ、ポスター）のデザインに明るく目を引く配色や温かみのあるイラストを採用し、親しみやすいものにリニューアルする。</p> <p>作成した募集要項・チラシは、学校を通じて県内の全ての小中学生に配布する。</p>	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】 鳥取ゆかりのイラストレーター Satoshi OTA さんに依頼し、子どもたちが動物とともに作品を制作し楽しんでいる親しみやすいイラストを描き下ろしていただいた。募集要項・チラシ・ポスターのベースとなる色は明るい水色とした。</p> <p>こうして作成した募集要項及びチラシを県内小中学校（約 180 校）の全校生徒数分（約 45000 部）作成し、配布した結果、出品作品は昨年度に比べて 297 作品増加し、来場者についても全会場合わせて 539 人増加した。</p>	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】 事業の広報戦略として、そのイメージづくりは重要である。募集チラシなどの広報物のデザインに明るい水色を基調とした目を引く配色や優しさが伝わる親しみやすいイラストを採用し、県内全校の小中学生に配布することで、興味を持ってもらえるよう取り組むことができた。</p> <p>チラシのイラストが変わったことで来場者数等が増えたかどうかを分析できるデータはないものの、結果として出品作品と来場者が増加したことは評価できる。</p>
		<p>自所属の各種 SNS（X、インスタグラム）で作品募集及び展覧会の周知を行うとともに、他所属が所管するサイト（子育て王国とっとりサイト、とっとり教育ポータルサイト等）を積極的に活用することで、主なターゲット層である子育て世代への効率的な周知を行う。</p>	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 今年度から新たな広報媒体として、子育て王国のウェブサイト・SNS を活用した。来場者へのアンケートでは、来場のきっかけとして子育て王国課のウェブサイト・SNS を見たと回答した人は 0.3% であり、来場に直接結びついたとまではいえないものの、来場者数は昨年度に比べ大幅に増加しており、一定の効果はあったと考えられる。</p> <p>なお、ジュニア県展の関連企画で写真撮影ワークショップを行った際には、参加者の約 3 割が子育て王国の SNS 等を通してイベントの存在を認知していた。</p> <p>【課題】 県展とジュニア県展共通の SNS（X、Instagram）を運用しているが、フォロワーが少ないので、投稿回数を増やして内容を充実させるなどして発信力をつけていく必要がある。</p>	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 各種 SNS で作品募集及び展覧会の周知を行うとともに、子育て王国とっとりサイト等広く子育て世代に訴求するサイト活用することを通じ周知の範囲を広げることで、来場者の増加に一定程度つなげることができたのではないかと。単年で大きな成果が出ることは難しいが、継続することによって認知度が上がれば一層の効果が期待できる。</p> <p>【課題】 「SNS のフォロワーが少ない」という課題があり、フォロワーの増加に向けて工夫する必要がある。</p>
		<p>【前年度の課題】 ※前年度評価対象外</p>		
達成度集計(※5)		(5/9) ≒ 55.5%	(5/9) ≒ 55.5%	

【定量目標・実績】

	目標	実績	(参考) 昨年度実績
⑬ アンケート回収率 (%)	45.0%	48.8%	44.0%
⑭ 観客満足度 (%) (※6)	98.0%	98.3%	97.6%
⑮ 入場者数 (名) (※7)	4,800人	5,178人	4,639人

【自己評価総括】

【成果】

定量目標①アンケート回収率は48.8%で、目標の45.0%を上回った。

動線の最後の目につきやすい場所にアンケート記入台を設置するとともに、受付でアンケートを配布し、鑑賞が終わったタイミングで看視員から積極的に記入の呼びかけをするようにした。また、文化政策課ウェブサイトに出品目録を掲載し、それに繋がるQRコードをアンケート用紙の下部に記載したことで、用紙を手を持ったまま鑑賞する方が増え、最後までアンケートの存在を意識してもらえたことが回収率の上昇に繋がったと考えられる。

定量目標②顧客満足度は98.3%で、目標の98.0%を上回った。

アンケートでは、作品のレベルが年々高くなってきており、創造性のある作品や技術が高い作品も多く、見応えがあるとの回答が多々あった。また、作品そのものだけでなく、「作品講評が分かりやすい」「展示順が見やすい」などの意見をいただいております。全体的に非常に満足度が高かったため、来年度以降も維持できるようにしたい。

定量目標③入場者数は5,178人で、目標の4,800人を上回った。

全会場で昨年度より多くの来場者が訪れたことに加え、年代別では特に19才以下と40代の鑑賞者数が増加した。今年度から子育て世代をターゲットとした広報として、「子育て王国とっとりサイト」へのイベント情報掲載や「子育て王国とっとりアプリ」でのプッシュ配信など新たな媒体を活用したことが、増加の一因となったと考えられる。

【課題】

- ・出品目録について、令和5年度から紙の配布をとりやめ、ウェブサイトに掲載することとしているが、紙の目録が欲しいとの声が多数あった。受付には紙のものも用意しており、要望があればお渡ししていたが、紙の目録があるという積極的な案内はしていなかったため、来年度は案内方法を検討する。
- ・講評キャプションについて、特に60代以上の方から、字が小さくて読みづらいといった意見があったため、来年度はサイズの見直しを検討する。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・展示方法については、学年順に並んでおり分かりやすいとの意見があった一方、会場内の表示が少なかったため、見たい学年がどこに展示してあるか分かりにくかったとの意見があった。また、以前に比べると展示作品数が減っており、特に県立博物館と倉吉博物館では、会場の規模に対して作品数が少なかったため、寂しい印象を受けたという意見や、スペースがあるのであれば、2段ではなく1段で展示してはどうかとの意見もいただいております。来年度に向けて、より分かりやすく、作品をしっかりと見ていただける展示方法や案内表示を検討する。

【総括】

【成果】

<全体>

・作品のレベルが年々高くなってきており、創造性のある作品や技術が高い作品も多く、継続して取り組んできていることの成果が表れている。アンケートでも満足度が高く、見応えがあるとの回答が多々あった。

・子どもたちの作品はどれもすばらしかった。こういった展覧会を企画運営するのは大変であると思うが、意義は大きい。だからこそ多くの子供達に見てもらい、美術に対する興味関心を高める機会をどんどん作っていただきたい。

・全体の印象として、レベルが高く見応えがあった。好きな作品、感動した作品も複数あった。今後も期待したい。

<定量目標>

・入場者数が目標及び昨年実績を上回り、児童生徒数の減少傾向の中、出品作品数も前年度に比べ300点近く増加してお

り評価できる。広報のイメージ戦略、SNSの活用など広報の充実、写真・絵画教室の開催、上位作品のウェブ掲載など新たな取り組みも含め取り組みの成果が表れている。

- ・アンケート回収率、満足度数も目標値及び昨年度実績を上回っており、作品の質、展示方法などの技術的な進化とともに評価できる。

【課題】

<展示>

- ・来場者の25%は60代以上の方々であり、講評キャプションの文字の大きさについて一定程度配慮が必要である。
- ・チラシの「入賞作品はすべての会場で、入選作品は出品した地区の会場で展示されます」という記載は小さくてわかりづらい。標記及びフォントについて工夫が必要である。
- ・他の地区の子どもの作品を含め全作品の展示を見られなくて残念との声があった。全会場で全作品の展示は物理的に無理であろうし、一部を選ぶ作業もまたその大変さは伺えるものの、何か良い方法があれば期待したい。

<自己評価>

- ・会場によって、規模や展示の仕方、運営の違いがあるので、自由記載部分以外についても会場ごとのアンケート結果を示していただくことで、成果や課題がより明確になるのではないかと。
- ・目標に関連する回答については、もっと細かい分析が必要ではないかと。

<その他>

- ・アンケートでは出品目録について紙の目録が欲しいとの声が多数あった。必要に応じ紙の目録も準備しているということについて事前の広報や受付での案内の方法も含め検討が必要である。
- ・ウェブサイトから入賞作品を見つけるまでに少し手間がかかる。慣れない人でも容易に作品に到達できるような工夫を期待する。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・評価のポイントが、SNSの活用と親しみやすいポスターに絞られていたことに違和感を持った。
- ・アンケート調査結果では、初めて来場した者の割合が47%であり、また来場したきっかけの59%が出品・入選者の関係者であることから、出品者を増やしていけば連動して来場者は増えていくものと思われるが、一方で出品関係者以外にも広く興味・関心を持ってもらうための工夫も必要ではないかと思う。
- ・募集要項・チラシについて、鳥取ゆかりのイラストレーターに依頼し、子どもたちが動物とともに作品を制作し楽しんでいる親しみやすいイラストとするなど工夫がありよかった。学校では、近年各種情報をマチコミなどの電子広報媒体を利用して保護者に届けている例も増えており、募集要項等についてこうした媒体の活用も検討してはどうか。(夏休み前には学校に各種コンクールなどの案内が大量に届くため、せっかくのチラシが埋没してしまう可能性もある)
- ・出品された子どもさんとその家族づれが多く、作品の前で写真を撮られている姿を多く見かけた。美術館などでの作品展示は子どもたちにとっては大きなステータスにつながると思われる。
- ・他の子どもさんたちの作品を見ることにより、個々の子どもたちの次の創作への刺激につながると思われる。子どもたちとその親の世代は、普段は美術館への来館が少ない年代であり、美術館の他の作品展などへの関心を誘発する事業としても期待できると考えられる。

【文化芸術事業評価シート】

目的	自己評価			評価委員による評価
	取組目標 (※1)	行動計画 (※2)	達成度(※3)及び 評価理由(※4)	達成度及び評価理由
文化芸術に親しむ環境づくり	文化活動者の発表や創造の機会の提供	<p>劇団では毎年開催するオーディションで、子供から高齢者まで多くの方々から幅広い参加者を募り、地元イベントでの公演やボランティア公演を年間を通して実施することで「創造性」「挑戦」「協力性」「表現する」「自信」「伝える」力を育成しているが、本公演をこれらの力を発揮する集大成の場として提供する。また新しい自分を見つけ自信に繋がる、互いを認め合う場とする。今回の公演では地域の方々との密着した活動により、公演を観に来ていただくお客様の顔を近くに感じ、捉え、作品の思いを『伝える』、『届ける』にはどうすれば良いのかを一人一人、又は全員一丸となって話し合い取り組む挑戦を繰り返し、悔いのない舞台を目指す。</p> <p>公演では、絵本の世界を表現できるようにお客様に魅せる演技、歌、ダンス、世界観をお届けする</p>	<p>達成度：達成 【成果】 今年度オーディションで合格したのは3名、昨年度作品を観てからの応募であった。我が劇団では応募してきたその『勇氣』で基本合格となるが、本人の体調面(どの程度活動できるか、又は団がサポートできるかを含む)や、お子様については保護者等のサポート体制も含め実施した。</p> <p>オーディションの課題は用意された歌とセリフ、又は表現のどちらかを選択し20分の練習(現団員が教える、又は一緒にする等のサポート有)をしてから審査し、見事合格した団員は入団後は意欲的に稽古に参加、イベントにも出演した。</p> <p>新しい団員を含め作品への挑戦から年齢も上下関係なく皆と協力し支え合う姿が見られた。どう『表現する』『伝える』をどうやって?の課題に一人一人が真剣に向き合いそれを稽古で表現していく勇氣、また演出によるダメ出しに力強く取り組んでいく姿は稽古場に幾つもの奇跡と感動を生んだ場となり本公演で力を発揮することができた。</p> <p>小さな躓きから大きな挫折を繰り返し、それでも誰一人諦めることなく最後まで挑んだ姿はやはり『伝える』『届ける』心をいっぱいにした活動場だったと思う。</p> <p>そして絵本のような世界を作り上げるんだと一丸となって作成した大道具の舞台装置と衣装では稽古同様に時間を要し困惑しながら『信じる』気持ち一本でどこまでも作ると思った</p>	<p>達成度：達成 【成果】 幅広い年齢層の団員で構成されており、門戸の広さとともに、一般的な商業演劇とは異なる地域の文化の創造を感じ取ることができた。また、個々の団員が協力して繰り返し練習を重ねてきた様子が見受けられ、その過程で、様々な「力」が育成されたものと推察できた。その発表の機会の授受という点で、公演回数が複数あったのもキャストと観客双方にとって良かったと思う。大道具については、見応えのあるものが仕上がっていた。</p> <p>なお、課題というわけではないが、パンフレットのキャスト紹介では在団歴、主なキャスト歴なども掲載すると、よりキャスト一人ひとりを知ることができ、親しみが湧きやすくなるのではないかと感じた。</p>

			STAFF、保護者の姿が見られた。舞台を終えてそれぞれが悔いが残るところもありながらもできたこと、やり遂げたことは自信となり、「来年は！」と次への意欲に繋がるものとなった。	
		稽古を通し「表現する」「出来る」までの挑戦を繰り返す、普段見られない、又は新たな発見を自分の中に見つけ、自由表現の楽しさを見つける場を提供する。	達成度：達成 【成果】 表現する、体いっぱいでは足りないんだと心から入るという事を学んだ。 普通だったらやらない動作や言わない言葉、特に歌では今まで知らなかった声の出し方に挑戦したことは大きな発見と自信に繋がった。 出来た事は自分自身、又は互いに発見でき、出来たことで互いに認め合う姿も多くみられた。	達成度：達成 【成果】 一人ひとりが役柄を表現する楽しさを感じているように感じられた。技術的な面だけではなく、演技に幅を感じる場面も多くあったことは、練習過程で、各々の学びが深く得られたからだろうと思われた。そのエネルギー、モチベーションを持ち続けていただきたい。初演では緊張が強い場面もみられたが、回数をこなして2回目、3回目では人前での表現が磨かれていったことと思われる。
	誰もが文化芸術に親しむことが出来るようになるための環境づくり	ダンスの先生や音楽の先生からの体験談、アドバイスを受け、小中学生から高齢者まで「歌」「音楽」「ダンス」「演技」に挑戦できる場を十分に提供する。 協力し合い互いの個性を認める力を付ける場を提供する。 ダンスでは出来る喜びと感動、歌では言葉を大切にしたい歌表現に力を入れ発声やストレッチ、歌指導の場を多く提供する。 研修では地元団体の演劇、ワークショップ、劇団四季やサーカスなどを観賞する場を年間を通して設けることで心に「感動」と、自身の「感性」を見つける。	達成度：概ね達成 【成果】 歌、ダンス、場面作りでは稽古時間外で自由に稽古できる場を毎週2回2カ所設けた。演者同士で自主的に声を掛け合い練習していた。 特にダンスではカウントから始まり歌もあり、表現もありで皆で本稽古までに揃えるぞ！といった意欲を感じた。 指導してもらいたいといった演者には指導者（先生）から個人また合わせるために対象者全員に指導を十分に付けた。また歌では指導を受け声の広がり、声を弾く、弾む、声を飛ばすといった歌い方が出来るようになったと大きな成果が見られた。 舞台が終わってから今年は特に歌もダンスも楽しかったね！と感想が沢山あり、早く次の（来年度作品）稽古がしたい、もっとやりたい！と声が上がって意欲に繋がる結果となった。 研修では劇団四季『美女と野獣』を観に行きアナウンスの声の出し方、リズムから学び、表情が見えなくても分かる表現に感動	達成度：概ね達成 【成果】 団員によっては練習意欲に温度差があったのかもしれないが、稽古時間外で自由に稽古できる場を毎週2回2カ所設けることが可能だったというのは、素晴らしい試みだと思う。また、全体の指導のほか、個別指導も充分に行われ、個々の団員にとっては手応えが感じられたと思われる。 研修で鑑賞の機会もあったとのこと、実際、歌やダンスので、完成度が高く満足できる場面も多くあった。惹き込まれる団員は聞き取りやすい声でそのキャラクターならではの話し方や仕草、動きが表現されており、それが客席まで届いているように感じられた。 【課題】 場面によって完成度にむらがあったのは、団員ごとの取り組みの差だったのか、全体の進行計画の問題なのかは不明だが、場面によって力不足ではないのに、仕上がって

			<p>した。</p> <p>どうやったら出来るのか、立ち姿、姿勢、体の使い方、そして心を作る（使い方）、感性を学んだ場となり憧れ、そして目標となった。</p> <p>【課題】</p> <p>歌では、いろんな声が自由にさせる、広がる音域、音階を伸ばしていくことを今後の目標としたい。</p> <p>ダンスでは、個人、団体と一緒に出来る喜びから仕上がる感動までの指導を多く提供し更なる自信に繋げることを今後の目標としたい。</p>	<p>ない印象があったのはとても残念だった。</p> <p>アンケートのコメントにも書かれていた声や歌詞の聞き取りにくさについては、初演を2階席1列目で鑑賞した印象では、チルチルとミチルが2人で歌う場面で BGM の音量が勝っており、歌詞が聞き取りにくいと感じた。</p>
		<p>地域のイベントや地元企業（又は企業イベントへの参加）、地域団体、教育関係と連携し小中学生から高齢者まで文化芸術に対し、興味を持ってもらうことで劇団への参加・本公演への来場を促す。</p> <p>活動のPR、ポスターチラシの掲載、配布をし小中学生から高齢者まで、そして家族連れ、友人同士での来場を促進する。</p> <p>劇団本来の活動だけでなく、アンケートによる来場者からのコメントを参考にし、一人でも多くのリピーターを増やす。</p>	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】</p> <p>イベントでは地元企業、地域団体、有志の方々に沢山の協力得て行う事が出来、チラシ配りPR活動の場が多く出来た。</p> <p>特に CM 効果ではテレビ、ラジオで沢山の方々に知っていただく機会であり Web 販売、当日券も多く購入していただけた。</p> <p>様々な方面からと沢山の方々の協力を得て宣伝、PRが出来、感謝できる一年となった。</p> <p>アンケートでは沢山のコメントを頂き励みとなり力となった。また見に来るよ。来年が楽しみ。もっとみんなに知ってもらいたい！観てもらいたい！といったコメントが多くリピーターの確保に繋がるような反響を得られた。</p>	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】</p> <p>本公演以外に多くのイベントに出向いたことは、より多くの層にミュージカルの楽しさを知ってもらうことや、劇団の存在を知ってもらう機会となったことが予想される。実際に入場者は多く、ほぼ満席の状況で、PRの効果も大きかったと思われる。また耳に入った会話では、リピーターも多かった様子だった。</p>
【前年度の課題】 ※前年度評価対象外				
文化芸術が育む・文化芸術を育む人づくり	子どもたちがアートを鑑賞、体験、実践する機会の充実	<p>子供を中心に保護者の方々、地域の方々、応援していただいている方々に文化芸術への関心を持っていただく為の場とする。</p> <p>イベント活動で過去作品（歌やダンス、手話）を披露したり、子供向けに参加型のイベントをすることで、地域の多くの子供たちにチャレンジと出来るまでの場を提供し、ミュージ</p>	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】</p> <p>イベントステージでは子供を中心に活動をした。</p> <p>お客様との距離を近く取れるコンセプトを考え、地域の多くの子供達と一緒にチャレンジ出来る催し（今回は手話と射的）を提供出来た事、また有志の集いでは昨年度作品をして欲しいといった申し出もあり、改めて台本の調整を行いミニ公演の上演</p>	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】</p> <p>イベントステージで創意工夫を凝らしたことに加え、本公演でも 20 歳未満の来場者が最も多かったことから、子どもたちのアート体験に貢献できたことが伺える。</p>

		<p>カルに親んでもらうことで本公演に関心を持っていただく。</p> <p>SNS を使った活動の報告、紹介、また練習風景の紹介を増やしていき来場を促進する。</p>	<p>が可能となった。そして今年度作品への集いの場も頂け本公演に強い関心を持ってもらえた。</p> <p>今回から YouTube に CM を載せる活動を増やした。</p> <p>また X、Instagram も活躍しておりイベント情報や練習風景の頑張る姿を紹介できた。</p> <p>特に X では『今ここ頑張ってるよ』から『ここ難しいよ〜』等をリアルタイムで吹き、稽古場風景を多くお知らせ出来た。</p>	
	<p>【前年度の課題】 ※前年度評価対象外</p>			
<p>文化芸術による元気な地域づくり</p>	<p>伝統行事・伝統芸能の継承</p> <p>地域における文化芸術の活性化</p>	<p>鳥取で長く活躍しているアーティスト、また鳥取出身で現在海外へと幅広く活躍されているアーティストを起用する。</p> <p>ミュージカルには欠かせないジャズ音楽とダンスを起用し関心から興味へ、取り組みから目標へと深く知っていくことで将来に向けた夢への第一歩になるきっかけとなるよう取り組む。</p> <p>大道具、衣装の制作においては、その時代の文化を学び再現する。</p> <p>その道具、衣装をどう扱ったのかまでを調べ、学び使用することで日本の文化を知るきっかけとする。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>作曲家グッドサウンドさんは今は無くなった地元で活動されていたミュージカル JOY さんにおられた方で、現在海外活動を中心としている中での起用だったが、演出の要望どおりに新しいチャレンジに加え素晴らしい曲を仕上げていただいた。</p> <p>ミュージカルには欠かせないジャズ音楽には新たにサクスメンバーを加え予想以上の仕上がりに楽しく思いどおりの詞がのせられた。</p> <p>また演者は曲負けしないぞと意気込み、チャレンジ出来る歌の練習に多くの時間を費やすことが出来た。</p> <p>離れていても三者一体で一緒に作るんだといった意欲と思いが一致した仕上がりになったと思う。</p> <p>舞台終了後、次回作品ではもっとこんな音を入れたら良かったんじゃないかといったコメントに合わせ皆で話し、将来に向けたミュージカルへの第一歩に繋がる機会となった。</p> <p>ダンスでは今回3曲のみ先生に振付指導をお願いし、場面、曲の世界観に重点を置いた振付をしていただいた。</p> <p>衣装では作品の時代に合わせたデザインを具現化、衣装に合わせた動きを夏ごろから着用して</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>さまざまなジャンルの音楽や役柄に合わせた衣装、場面ごとの舞台セットは演出側の意図が感じられ、作品の世界観を表現されていた。ダンスも良い仕上がりで、振り付けを丁寧身につけて行った過程が伺われた。</p> <p>【課題】</p> <p>アンケートのコメントにも書かれていたが、ストーリーが分かりにくく感じられ、客席からも「面白いけど難しい」という声が聞かれた。その要因としては前説やパンフレットでの情報がなかったほか、元の「青い鳥」のストーリー自体も「チルチルとミチルが青い鳥を探す」ことしか知らない観客が多いことが予想され、これについても前説やパンフレットで触れる等の対応があると理解しやすかったのではないかと感じた。</p>

			<p>稽古を行い体で覚えていった。舞台セットでは人間の世界と妖精たちのあらゆる世界のセット作りは想像をはるかに超えた挑戦・仕上がりになったと思う。今回、日本の文化ではなかったがチルチルミチルの時代背景を知ることが出来た。著者の伝えたい事を学んだ事により心を豊かに出来た。</p> <p>【課題】 歌を中心にダンスに表現、そして心を動かすことが課題であり、歌、ダンス、演技のスキルアップを目指す中で歌を中心にダンスに表現、そして心を動かすことが目標。</p>	
【前年度の課題】 ※前年度評価対象外				
達成度集計(※5)			(16/18) ≒88.9%	(16/18) ≒88.9%

【定量目標・実績】

	目標	実績	(参考) 昨年度実績
⑩ アンケート回収率 (%)	50%	54.4%	80%
⑰ 観客満足度 (%) (※6)	90%	87.9%	99%
⑱ 入場者数 (名) (※7)	1,300人	1,096人	1,100人

【自己評価総括】

【成果】

稽古場は明るく好ましい空間で行う事が出来た。活動を通して団員、その家族、そしてスタッフとして動いてくれた人たちと一致団結できた。研修では団全体と団員其々に多くの課題を残した。更なる目標となった。予算を多く組めたことでテレビ CM、ラジオ、広告の宣伝が十分に出来たことは宣伝効果だけでなく携わる全ての者にとって作品に対する強い意欲と責任感を生むものになった。予算を多く組めたことで大道具（舞台セット）、衣装に大きく貢献出来た。また制作に必要な場所と空間、環境を作れた。稽古期間を全体的にみて可能性を追求出来た期間だった。団員とその家族の表情もどんどん変化していった。舞台が終わって、またやりたい、直ぐ次の作品に取り組みたい、稽古がしたいといった声が上がったことは、良い一年だったと評価できる。多くのお客様から評価してもらえた作品となった。また次にやってほしいといった声が聞こえたことは団員へのやる気と自信に繋がっている。

【課題】

一部のキャストで稽古に遅刻、欠席が多く見られ取り組む意欲に時差が生まれた事で調整に時間を要したため、今後は一人一人へのケアを強化したい。自分の声で表現する、伝える力を作っていく場としたい。演出的に、また客観的に存分に表現できたかは今後も終わりなき課題。メッセージ性を解りやすく伝える脚本作り、演出に取り組む。

読解力（読書）の力を付け、作品に対してのディスカッションを多く取り入れたい。
練習時間が多く長いので子供たちの勉強を見る時間を今後視野に入れていく必要がある。
大道具（舞台セット）製作スタッフの補充、衣装製作スタッフの補充が必要である。
舞台装置（セット）では制作の取り掛かりが遅く、時間が足りない事態が生じたため、今後はもっと早く取り組めるようにする。

ミュージカルをもっと身近に提供していける機会や場を設ける活動に取り組む。

昨年公演『幸福の王子』ミニ公演が出来たことで、なかなか外出が出来ない児童養護施設の子供達、障がい者施設等、子ども食堂、病院等に出向き現地でお届けできる取り組みを課題とした活動をしたと11月に議題に上げ、皆賛成。その為のミニ作品も今後増やし、たくさんの方にミュージカルを知っていただく、喜んでもらえる機会を提供できるミュージカル団体にしていきたいと思っている。

現在、いくつかの有志団体からイベント出演してほしいといった依頼あり、時期詳細含め今後話し合っていき、出来るだけ全力で取り組みたいと思っている。

更なる SNS 活動を増やしていきたいと思っている。

【その他事業に関する意見、感想など】

今回多くのチャレンジが出来たことは補助金による支援に他ならない。

これに値する活動が出来たかは分からないが団にとって大きな意識改革、活動に良い影響をもたらした。

アンケートで、こんな作品をしてほしいといったコメントが年々増えており、新たなチャレンジとして取り組みたい。次年度も裏切らない作品となるように取り組む。また、ミニ作品も増やしていき、ホールの舞台だけではなく、たくさんの方にミュージカルを知っていただき、喜んでもらえる機会を作る活動をしていきたい。

SNS 活動についても更に増やしていきたいと思う。

作品同様に喜びと幸福、いろんなことに『ありがとう』と感謝出来た活動期間となり、今後もっと学びと挑戦の場を作っていき更なる貢献が出来る強い劇団にしていこうと思う。

ありがとうございました。

【総括】

【成果】

・始まり当初は、個々の演者の歌、演技力の技術的なレベルに気を取られていたが、だんだんと入り込んで鑑賞できたのは、充実した練習の賜物だと思う。

・練習量による成果が発揮された素晴らしい舞台だった。音楽、歌声ともにとっても良かった。もう一度観たかったが、日程が合わなかったため、再公演を楽しみにしたい。

<舞台演出等>

・背景・大道具なども、丁寧に作られたレベルの高いものだった。衣装は一部気になるところもあったが、文化的歴史的背景も勉強しつつの制作だったとのこと、今後につながる内容だった。

<出演者>

・本公演は団員の表現の場を創出するとともに、観客にとってもミュージカルを身近に鑑賞できる機会であった。今後も活動を継続し、キャストとスタッフ両方が増えていくことを期待したい。

・今回は小さな子どものキャストもあり、今後が非常に楽しみであると感じた。

【課題】

<公演内容>

・冒険があと一つあるとより満足できた。

・冒頭の歌が少し長かったと思う。お話が早く始まらないかなと思った。ストーリーについて紹介していただけると良かった。

・最初の方でチルチルが「青い鳥を探しに行こう」ミチルが「行きたい」と言ったところが、「行きたい」ではなく「行こう」と言ったほうが良いのではないかと思った。

・最後のあたりのシーンで玄関から出入りしていたのに、外（庭？）から部屋への移動が気になった。

・脚本的なことだが、最後の落としどころが、ストーリーの展開からすると見ている側からすると少し分かりづらかった。

<アンケート結果>

・アンケート回収率は目標を達成しているものの、数値としては昨年度から大きく低下していることについて分析が必要だと思われる。

・観客満足度も同様に低下している要因を分析し、今後につなげていただきたい。

<その他>

・休憩の入り方について、幕が上がったまま休憩のアナウンスが入ったため分かりにくく、周りの観客にも「休憩に入ったのか？」という戸惑いがみられた。また、幕が上がったままキャストがステージから掃ける姿が客席から丸見えなのは若干違和感があった。

(参考)

鳥取県文化芸術事業評価委員会委員名簿（令和6年度事業評価）

氏名	所属等	備考
石谷 依利子	砂丘 YOGA 代表	
荻原 恵子	フォークダンス、レクリエーションダンス、 日本民踊指導者	
奥田 晃巳	淀江さんこ節保存会事務局長	
嘉賀 収司	境港市民図書館館長	
川口 朋子	DANCE for REAL 代表	
小林 圭子	ミュージック・オフィス ♪DoReMi 代表	
谷口 透	鳥取大学地域価値創造研究教育機構副機構長	
野川 貴代子	米子市文化協議会	
村田 速実	打吹童子ばやし代表、社会福祉法人みのり福社会理事長	
山川 智馨	鳥取短期大学幼児教育保育学科助教	
山本 仁志	鳥取県文化振興財団理事長	会長
渡邊 寛智	島根県立大学短期大学部保育学科教授	副会長

※令和7年3月末時点

事業別評価報告書執筆担当一覧

番号	事業名	主体	団体名	実施日	実地検証 委員数	執筆担当
1	第22回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2024企画事業	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会	令和7年1月26日(日)	1	荻原委員 村田委員
2	第22回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2024地域連携事業			令和6年11月24日(日)	1	渡邊委員 小林委員
3	第22回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2024展示事業			令和7年1月10日(金) ～13日(月・祝) 1月17日(金)～19日(日) 1月24日(金)～26日(日)	1	川口委員 石谷委員
4	第68回鳥取県美術展覧会	鳥取県	地域社会振興部 文化政策課	令和6年9月15日(日) ～11月28日(木)	2	嘉賀委員 谷口委員
5	第22回鳥取県ジュニア美術展覧会			令和6年12月7日(土) ～令和7年2月2日(日)	2	山本委員 奥田委員
6	第9回合同公演ミュージカル幸せの青い鳥	鳥取県文化団体連合会	鳥取県ミュージカル連盟	令和6年12月14日(土) ～15日(日)	1	山川委員 野川委員

評価委員会の開催状況

回数	開催日	報告・協議内容
第1回	令和6年5月29日	1. 協議事項 ア 令和6年度評価方針について イ 令和6年度評価対象事業について ウ 令和6年度評価事業の実地検証・執筆担当について
第2回	令和7年3月17日	1. 審議事項 令和6年度事業別評価報告書案について 2. 事業実施者への評価報告及び意見交換 ・第9回合同公演ミュージカル幸せの青い鳥 ・第68回鳥取県美術展覧会 ・第22回鳥取県ジュニア美術展覧会
第3回	令和7年3月21日	1. 事業実施者への評価報告及び意見交換 ・第22回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2024企画事業 ・第22回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2024地域連携事業 ・第22回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2024展示事業

鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱

(目的)

第1条 県が実施又は助成する文化芸術事業のうち、次条に掲げる事業を年度ごとに点検することにより、当該事業における良質な作品創造や県民の文化芸術事業への鑑賞、参加の機会の充実及び効率的な事業の運営方法を確立することを目的に鳥取県文化芸術事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(評価対象事業)

第2条 評価対象事業は、委員会と県が協議のうえ、次に掲げる事業のうちから選定する。

- (1) 鳥取県総合芸術文化祭主催事業
- (2) 鳥取県文化団体連合会加盟団体助成事業

(委員会の任務)

第3条 委員会は、鳥取県附属機関条例（平成25年鳥取県附属機関条例第53号）別表第1で定める事項を調査審議するものとし、委員会の任務の具体的内容は次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 評価に係る実施方針の決定
- (2) 評価項目の作成及び調整
- (3) 評価報告書の作成、公表及び評価報告会の開催
- (4) 評価対象事業における改善が必要な事項の指摘
- (5) 被評価者が作成する改善計画の承認

(委員の任務)

第4条 鳥取県文化芸術事業評価委員会の委員（以下「委員」という。）は、作品の鑑賞・実地検証及びアンケート調査資料等に基づく評価を行う。なお、評価対象事業の企画・立案に関わる者は、当該事業の評価を行うことができない。

2 委員会は、複数年にわたり改善が認められない評価対象事業について、県に対し補助金支出の妥当性に係る説明を求めることができる。

(組織)

第5条 委員会は、県民（県内在勤者を含む。）で、調査審議する事項に関し知識又は経験を有する者のうちから、知事が任命する。

2 委員会は、委員15名以内をもって組織する。

(会長)

第6条 委員会に会長を置く。

- 2 会長は委員の中から互選する。
- 3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

(任期)

第7条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることがある。

(会議)

第8条 委員会の会議は、会長（会長が定まる前にあつては委員会の庶務を行う所属の長）が招集し、会長が議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 4 会議には、会長が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第9条 会議の事務を処理するため、鳥取県地域社会振興部文化政策課に事務局を置く。

(要綱の改正)

第10条 この要綱の改正は、会議の決議を受けなければならない。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が委員会に諮り、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成26年1月15日から施行する。
- 2 平成25年度中に任命する委員の任期については、第5条第2項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成27年7月15日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成28年2月5日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、令和元年7月24日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、令和6年7月10日から施行する。

令和6年度鳥取県文化芸術事業評価報告書

令和7年3月

〒680-8570

鳥取市東町一丁目220番地

鳥取県文化芸術事業評価委員会（事務局：鳥取県地域社会振興部文化政策課内）

電話：0857-26-7839

ファクシミリ：0857-26-8108